

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	白坂 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者分析およびアパレル企画のプロセスを身につける						
授業の概要	現在のファッションは多種多様化し、自分自身の価値観や感性に基づいて「自分らしさ」をうまく表現できる消費者が増えてきている。このような成熟化した消費者を満足させるためには、その消費者のニーズに対応したアパレル商品の企画・設計が必要となる。 本講義では、消費者のさまざまな生活シーンやシーズン、テイストといったスタイリングのあらゆる要素を知り、またファッション感性イメージを理解した上で、自分の好みに陥らない客観的なアパレル企画の提案を行う。						
到達目標	我々が目にするアパレル商品について、その商品の企画の背景、意図、商品化までのプロセスが理解でき、自らアパレル商品の企画・設計ができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 成熟化した消費者と顧客満足 3. アパレル商品の種類と特徴 4. アパレル企業とは 5. シーン・シーズン・テイストのスタイリング 6. ファッション感性イメージについて 7. クラシック&エレガントのイメージ 8. ロマンティック&エスニックのイメージ 9. アヴァンギャルド&スポーティブのイメージ 10. マニッシュ&モダンのイメージ 11. ターゲット分析とコンセプト設計 12. コーディネート企画 13. オリジナルのアパレル企画 14. " 15. プレゼンテーションと講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業内で説明する 授業後学習：理解できなかった内容な次回質問し、欠席したり授業内にできなかった課題については各自進めておく						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	課題70% 出席状況（授業態度を含む）30%						
教科書	本山光子著『ファッション・スタイルプランニング』株式会社ファッション教育社						
参考書	文化ファッション大系 ファッション流通講座⑦『コーディネートテクニック演出編』文化服装学院編						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル生産実習（被服実習）						
担当教員	白坂 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服製作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する						
授業の概要	アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体情報を平面製図に起こすことにより、立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。 本実習では人体の構造、計測法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合った自己サイズの衣服製作へと展開させ、実物製作・部分縫いを通して、基礎的な縫製技術を習得させる。						
到達目標	アパレル製品の設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につける。 また、本科目は中高家庭科を教授するに足る専門的知識及び技能を習得することも目的とする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション①（スカートの基礎知識、採寸、基礎縫い） 2. タイトスカート（基本形）の製図（1/4製図）、セミタイトスカートへの展開（1/4製図） 作図終了後、各自で製作するスカートを決定する（タイトスカートorセミタイトスカート） 3. スカートの実物大製図（自己サイズ） 4. スカートの仮縫い・補正（トアル） 5. スカートの裁断（表地、裏地、各パーツの裁断） 6. スカートの縫製①印つけ（表地に切りじつけ） 7. スカートの縫製②印つけ（表地に切りじつけ） 8. スカートの縫製③印つけ（裏地にヘラで印つけ） 9. スカートの縫製④接着芯はり、縫い代のしまつ、後ろ中心を縫う 10. スカートの縫製⑤ダーツ縫い、ファスナーつけ、脇縫い 11. スカートの縫製⑥裾のしまつ、裏スカートの製作 12. スカートの縫製⑦表スカートと裏スカートを合わせる 13. スカートの縫製⑧ベルト作り 14. スカートの縫製⑨ベルトつけ、ホックつけ、アイロン仕上げ 15. レポート、着装して講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：衣服について日頃より関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておく 授業後学習：欠席したり授業内に出来なかった部分は各自進めておく						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	課題作品60% レポート20% 出席状況（授業態度を含む）20%						
教科書	文化ファッション大系 服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編						
参考書	文化ファッション大系 服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル生産実習（被服実習）						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服製作技法の習得、アパレル生産工程の理解						
授業の概要	アパレル生産工程を理解した上で、衣服製作の一連の作業工程について実践をとおして学ぶ。実習では、セミタイトスカートを題材とし、採寸、平面製図法によるパターン作成、仮縫い・補正、縫製仕様書の作成、素材の選択、裁断、縫製、仕上げまでを経験し、各自の寸法で作品を製作する。さらに、作業を進める中で、工業用とハンドメイド用のパターン(型紙)の両方を作成し、それらの違いを知ることによって用途に合わせた製作方法や工程の違いを理解する。						
到達目標	<p>(1) 衣服製作の一連の流れを把握する。</p> <p>(2) 工業用とハンドメイドの製作方法の違いを理解する。</p> <p>(3) 衣服設計、裁断、縫製などの衣服製作技法の基礎を習得できる。</p>						
授業計画	<p>1. オリエンテーション「方針・進め方の説明」： セミタイトスカートの授業内容について説明する。マルチン計測法による採寸方法を学び、各自の採寸表を作成する(JIS規格成人女子のサイズ表で、各自の寸法を確認する)。ミシンやアイロンなどの用具の使い方、まつり縫いなど衣服の始末について学ぶ。</p> <p>2. セミタイトスカート「製図①」： 平面製図法を用い、各自の寸法にあったタイトスカートを製図する。</p> <p>3. セミタイトスカート「製図②・1/4大製図」： タイトスカートの製図を完成させる。1/4大製図を作成する。</p> <p>4. セミタイトスカート「型紙作り」： 工業用パターン、ハンドメイド用パターンをそれぞれ作成し、パターンや製作方法の違いを理解する。</p> <p>5. セミタイトスカート「仮縫い・補正」： トワルの地直しの方法を学ぶ。トワルを型紙(工業用パターン)どおりに裁断し、印を付け、スカート本体を仮縫いする。スカート本体にベルトを付け、試着・補正する。</p> <p>6. セミタイトスカート「縫製仕様書作成、裁断・印しつけ①」： 縫製仕様書作成を作成する。本布(ウール素材)にアイロンをかけ、前後中心とヒップラインに置きじつけをし、型紙(ハンドメイド用パターン)どおりに表スカートを裁断する。</p> <p>7. セミタイトスカート「裁断・印しつけ②」： 型紙どおりに表スカートに印(切りじつけ)を付ける。</p> <p>8. セミタイトスカート「裁断・印しつけ③」： 型紙どおりに裏スカート(裏地)を裁断し、チャコペーパーで印を付ける。</p> <p>9. セミタイトスカート「縫製①」： 表スカートのウエストダーツを縫い、表前スカートと表後スカートを縫い合わせ組み立てる。</p> <p>10. セミタイトスカート「縫製②」： 裾にロックミシンをかけてまつる。ファスナー付けの準備をする。</p> <p>11. セミタイトスカート「縫製③」： 左脇明きにファスナーをしつけし、縫製する。</p> <p>12. セミタイトスカート「縫製④」： 裏スカートを縫製する。</p> <p>13. セミタイトスカート「縫製⑤」： 表スカートと裏スカート(裏地)を合わせる。ベルトを作る。</p> <p>14. セミタイトスカート「縫製⑥」： ベルトをウエスト部分につける。</p> <p>15. セミタイトスカート「仕上げ・まとめ」： ホック付け、アイロンがけなどの仕上げ作業をする。(講評・評価)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業後学習：授業の内容をもう一度見直し、衣服製作工程を整理してまとめる。授業内で製作課題が終わらない学生は、次回の授業までに終わらせる。						

授業方法	実習
評価基準と評価方法	製図・パターン(30%)、実物作品(60%)、提出資料(10%)で評価する。
教科書	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅰ』 文化出版局 2007年 ISBN978-4-579-10859-6
参考書	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレルデザイン論						
担当教員	白坂 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	アパレルデザインに関する表現法や素材、デザイン、色彩などの基本的な知識を身につける						
授業の概要	巷に溢れているアパレル製品の企画・設計には、アパレルデザインに関する基礎的な知識が必要不可欠である。本講義では、先ずデザインの基礎・定義を学んだ上で、形、カラー、デザインといったデザインの基礎知識を身につける。続いてアパレルデザインの基礎や要素に応用発展させることによって、アパレルデザインの基礎を系統的に幅広い視点から学び、アパレル製品のデザインについても理解を深める。						
到達目標	アパレルの機能性、審美性、表現方法を知り、適切な素材、デザイン、色彩の組み合わせによるアパレルデザインを理解できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 近代デザイン、服飾デザイン 3. デザインの定義とデザインの分類 4. 服飾のデザインとファッションデザイン 5. デザインの基礎 6. 形態 7. 色彩 8. 素材 9. デザインの展開 10. 基礎デザインからデザインへ 11. 造形デザインの展開 12. アパレルデザインの要素 13. ファッション産業におけるデザインの役割 14. 流行とファッションデザイン 15. 試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業内で説明する 授業後学習：理解できなかった内容は次回質問し、欠席したり授業内に出来なかった課題は各自進めておく						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験50% 課題30% 出席状況（授業態を度含む）20%						
教科書	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑨『服飾デザイン』 文化服装学院編						
参考書	授業内に紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	応用調理実習						
担当教員	大橋 陽子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	調理を通して、食を科学的（自然科学、人文科学、社会科学）に考える						
授業の概要	快適な食卓の環境を整えるため、日本および外国の食文化・調理文化を背景とした料理の成り立ちとその料理様式を理解し、日常食、供応食、行事食などの目的も理解する。そして、ライフステージにあわせた献立をたてる力を養う。献立作成において、健康面、文化的背景、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮することの重要性を理解する。実習を通して、食品の選別、調理技術、食事の対象に見合う食品の質と量、組合せの実際について学ぶとともに、テーブルセッティング、食卓作法について学ぶ。						
到達目標	基礎調理実習で会得した調理を組合せ、食品（特に魚介類）の処理法を習得する。加工食品等の表示を知ることにより、食品の知識を向上し、利用できるようにする。そして、調理の楽しさを知り、これからの健康づくりに役立てる。また、国内外の調理法や食文化を知ることにより、グローバルな社会に入る第一歩とする。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション および基礎事項テスト、講義 基本的栄養学（栄養素の種類と働き）</p> <p>第2回 講義・演習 食品表示</p> <p>第3回 講義 調理の歴史と和風料理の歴史</p> <p>第4回 実習 和風料理(1) 煮物</p> <p>第5回 実習 中華風料理(1) 揚物</p> <p>第6回 実習 洋風料理(1) 三枚おろし</p> <p>第7回 講義・演習 食卓作法 和洋中の食具、配膳、作法の違い</p> <p>第8回 筆記テストと解説</p> <p>第9回 実習 和風料理(2) 寿司</p> <p>第10回 実習 中華風料理(2) 蒸し物</p> <p>第11回 実習 洋風料理(2) 閉鎖式加熱(オーブン)</p> <p>第12回 実習 エスニック料理</p> <p>第13回 実習 発酵 ピцца</p> <p>第14回 実習 総合調理 松花堂弁当</p> <p>第15回 実習 実技テスト・講評およびまとめ</p> <p>第1回目授業(オリエンテーション)で、実習費(8,000円)を徴収する。行事等により順序が変更する場合があります。変更の場合は事前に連絡します。また、献立内容は種々の条件により変更することがあります。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習：事前配布レシピで調理法を検討</p> <p>授業直前：グループのメンバーと実習方法を調整</p> <p>授業後：実習の要点をまとめ、考察し、提出</p>						
授業方法	実習(グループ調理)、講義・演習、試験						
評価基準と評価方法	<p>テスト(筆記テストと実技テスト) 50%</p> <p>提出物 20%</p> <p>実習態度(服装を含む学習態度、班での協力態度、調理理論通りにできたか、指示通りにできたか) 30%</p> <p>提出期限等時間を守らない場合は、減点対象にする。</p>						
教科書							
参考書	<p>「あすの健康と調理」 三輪里子監修 アイ・ケイ・コーポレーション ISDN:978-4-887492-222-4 C3077</p> <p>「新版 フードコーディネーター論 第2版」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN 978-4-7679-0295-</p>						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	香りの科学						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	香りのさまざまな心理学的効用の考察						
授業の概要	人が生活していくうえでにおいは身の周りにあふれている。この授業では、香りの、鎮静・覚醒作用、ストレスや睡眠に対する影響、疲労度の軽減、免疫に対する影響、認知や記憶に対する影響など、数々の心理学的効用について実証されたことを具体例を挙げ解説する。また、精油の種類や使い方について、実際に香りを使いながら学ぶ。						
到達目標	1. 嗅覚の仕組みに関する用語を理解し、それを用いて嗅覚の特徴を説明できる。 2. 香りの心理学的効用を複数説明でき、生活の中で用いられる場面と関係づけて自分の考えを述べることができる。 3. 実際に精油に触れ、それらの違いを識別でき、特徴を言葉で表現できる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 香りを使用する目的 3. 嗅覚の仕組み 4. 香りの鎮静覚醒作用 5. 香りとストレス 6. 香りと睡眠 7. 香りと疲労 8. 香りと免疫 9. 香りと認知 10. 香りと記憶 11. 嗅覚の個人差 12. 精油の作用 13. 精油の使い方 14. 精油の種類 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日常でのにおいを意識し、その感覚を言葉で表現できるようにする。 授業後学習：香りを実際の生活の中でどのように生かすことができるか、毎回の授業の内容を思い出して考える。						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート(20%)、試験(80%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	古家 伸一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭で利用される電気機器を通して電気・機械を知る						
授業の概要	<p>家庭で使用される機器は科学技術の発展と共に高度化されてきました。そしてこれら多種多様な家電機器を私たちは利用し、快適な生活を営んでいます。一般の家電機器にコンピュータを搭載することに何のふしぎもなく、最近ではこれら家電機器間がネットワークで結ばれようとしています。</p> <p>この講義では、普段何気なく利用している家電機器の一般的な仕組みを理解し、それらを通して電気や機械についての基本的な知識を学習します。また、情報と結びつく家電機器についても考えていきます。</p>						
到達目標	<p>普段利用している家庭電気機器等の仕組みを説明できる。</p> <p>家庭電気機器のカタログを読み、比較して違いや特徴を述べるができる。</p>						
授業計画	<p>第1回：授業概要 第2回：国際単位系 第3回：電気用図記号 第4回：電気、その発生から消費まで 第5回：電池 第6回：パワーエレクトロニクス 第7回：モータ 第8回：冷暖房 第9回：誘導加熱 第10回：照明 第11回：音楽、映像 第12回：放送、通信、電話 第13回：ネットワーク 第14回：コンピュータ 第15回：家電製品の今後</p> <p>なお、授業の進行状況により内容が前後したり変更になることがあります。詳細は授業用web page上でフォローしますので詳しくはそちらを見てください。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義では、家庭にある電気機器や身の回りにある電気設備等について話題にするので、登下校の途中や自宅で実物を見て確認してほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点（小テストを含む）50%、提出物 50%						
教科書	教科書の指定はありません。必要に応じてプリントや授業用web page上のオンラインテキストを使用します。						
参考書	授業中および授業用web page上で紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	官能評価演習						
担当教員	武智 多与理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3~4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「食」に関する官能評価法, 鑑別法の演習						
授業の概要	「食」に関連した官能評価や食品の識別に関する基礎的な手法について解説し、演習する。実際の食品の品質についての知識として、食品学に関する内容も含む。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な官能評価法について、企画、設計、実施することができる。 ・代表的な食品鑑別法について、企画、設計、実施することができる。 ・食品の品質に関する知識を列挙することができる。 ・フードスペシャリスト資格試験の過去問を解けるようになる。 						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 食品の官能評価法とは（講義） 第3回 食品官能評価演習1（企画、設計） 第4回 食品官能評価演習2（実施） 第5回 食品官能評価演習3（実施） 第6回 食品の品質について（講義） 第7回 食品鑑別演習1 第8回 食品鑑別演習2 第9回 食品鑑別演習3 第10回 中間チェック（レポート解説） 第11回 食品鑑別演習4 第12回 食品鑑別演習5 第13回 食品鑑別演習6 第14回 味利きの実際 第15回 まとめ * 演習メニューが前後する場合がある。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおくこと 授業後：演習実施後は、各回レポートの提出を求める。						
授業方法	実習形式をメインとする。演習時は、授業開始時に講義形式で教科書及びプリントに基づいた説明をおこなう。この説明が演習の成果を左右することになるので集中して聴くことが必要である。 演習はグループ単位で行う。						
評価基準と評価方法	レポート50%, 受講状況（欠席は原点）50%						
教科書	「新版食品の官能評価・鑑別演習」（社）フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	企業研究（インターンシップ）						
担当教員	青谷 実知代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来就職したい業種に関連する会社でどんな仕事をするのか実際に働かせてもらい、専攻の分野がどのように活かされるのか、社会で「働く」ために必要な知識を身につけよう。						
授業の概要	①社会に出て働くことの意義と、その働き方について考える。 ②様々な業界・業種の実態や職場のルール、マナーを考察し、実際に企業やその他の組織で業務体験実習（インターンシップ）を行う。 ③社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につける（自己分析にもつながる） ④自分に適した職業選択ができることや職業生活設計が立てられるようになることを目指す。 ⑤前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力といった社会人基礎力の必要性について考える。						
到達目標	①専攻の分野が社会でどのように役立つかを考えることができる ②前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につけることができる ③社会で「働く」ことを考えることができる。						
授業計画	【6月14日（土）1.2時間目】 第1回. 実習先の事業内容の確認 第2回. 実習先への提出書類の作成 【7月12日（土）】 第3回. 社会人としての心構え—仕事の基本— 第4回. ビジネス・マナーと話し方のマナー 第5回. 「実習先について」「自己紹介の仕方」、学生の発表 第6回. 電話対応のマナー、手紙の書き方 【夏休み中（企業により異なるが7月末～9月中旬の期間のうち2週間実習）】 第7回. 企業での現地実習① 第8回. 企業での現地実習② 第9回. 企業での現地実習③ 第10回. 企業での現地実習④ 第11回. 企業での現地実習⑤ 第12回. 企業での現地実習⑥ 第13回. 企業での現地実習⑦ 【10月11日（土）】 第14回. 実習報告のまとめ 第15回. 実習報告プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容）	①インターンシップを通して自分は何を得ようとするのか、その目的を明確にしてください。 ②企業での現地実習があります（都市生活専攻独自の実習先に研修）						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	事前・事後レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、学習態度（実習先の研修も含む）と授業参加姿勢など総合的評価（60%）						
教科書	プリントを配布						
参考書	随時紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	武智 多与理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養学及び応用（ライフステージ）栄養学の基礎						
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。基礎栄養学では各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・5大栄養素の消化・吸収、代謝の過程と、体内での役割が記述できるようになる。 ・主要なライフステージでの栄養の特徴が答えられるようになる。 ・食品の機能性について列挙できるようになる。 ・フードスペシャリスト資格試験の過去問を解けるようになる。 						
授業計画	第1回 健康と栄養：健康概念と栄養・食生活 第2回 食事と栄養物質(1)：炭水化物の栄養 第3回 食事と栄養物質(2)：脂質の栄養 第4回 食事と栄養物質(3)：タンパク質の栄養 第5回 食事と栄養物質(4)：無機質の栄養 第6回 食事と栄養物質(5)：ビタミンの栄養 第7回 エネルギー代謝 第8回 食品の機能性と栄養(1)：食物繊維 第9回 食品の機能性と栄養(2)：抗酸化物質 第10回 ライフステージと栄養(1)：胎児・妊娠・授乳期 第11回 ライフステージと栄養(2)：成長期・成人期・高齢期 第12回 生活習慣病と栄養(1)：生活習慣病とは 第13回 生活習慣病と栄養(2)：生活習慣病と食事 第14回 情報社会と健康：栄養に関する情報 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%						
教科書	改訂 栄養と健康 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																														
科目名	基礎演習																														
担当教員	青谷 実知代																														
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																								
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的に開講されている。																														
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。 さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																														
到達目標	都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲を持つことができる。																														
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ 9. レポートの書き方Ⅱ 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ 14. フィールドワークⅡ 15. 夏休みの課題説明 <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ 17. 夏休みの課題報告Ⅱ 18～29：オムニバス形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） <table style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>LU①</th> <th>LU②</th> <th>LU③</th> <th>LU④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18～20回</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> </tr> <tr> <td>21～23回</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>24～26回</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> </tr> <tr> <td>27～29回</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> 30. 後期のまとめ 							LU①	LU②	LU③	LU④	18～20回	青谷	打田	鳥居	花田	21～23回	打田	鳥居	花田	青谷	24～26回	鳥居	花田	青谷	打田	27～29回	花田	青谷	打田	鳥居
	LU①	LU②	LU③	LU④																											
18～20回	青谷	打田	鳥居	花田																											
21～23回	打田	鳥居	花田	青谷																											
24～26回	鳥居	花田	青谷	打田																											
27～29回	花田	青谷	打田	鳥居																											
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、フィールドワーク																														
授業方法	演習																														
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																														
教科書																															

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																															
科目名	基礎演習																															
担当教員	打田 素之																															
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的に開講されている。																															
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。 さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																															
到達目標	都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲を持つことができる。																															
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ 9. レポートの書き方Ⅱ 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ 14. フィールドワークⅡ 15. 夏休みの課題説明 <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ 17. 夏休みの課題報告Ⅱ 18～29：オムニバス形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） <table style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>LU①</th> <th>LU②</th> <th>LU③</th> <th>LU④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18～20回</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> </tr> <tr> <td>21～23回</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>24～26回</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> </tr> <tr> <td>27～29回</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> 30. 後期のまとめ 								LU①	LU②	LU③	LU④	18～20回	青谷	打田	鳥居	花田	21～23回	打田	鳥居	花田	青谷	24～26回	鳥居	花田	青谷	打田	27～29回	花田	青谷	打田	鳥居
	LU①	LU②	LU③	LU④																												
18～20回	青谷	打田	鳥居	花田																												
21～23回	打田	鳥居	花田	青谷																												
24～26回	鳥居	花田	青谷	打田																												
27～29回	花田	青谷	打田	鳥居																												
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、フィールドワーク																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																															
教科書																																

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																															
科目名	基礎演習																															
担当教員	鳥居 さくら																															
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的に開講されている。																															
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。 さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																															
到達目標	都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲を持つことができる。																															
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ 9. レポートの書き方Ⅱ 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ 14. フィールドワークⅡ 15. 夏休みの課題説明 <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ 17. 夏休みの課題報告Ⅱ 18～29：オムニバス形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） <table style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>LU①</th> <th>LU②</th> <th>LU③</th> <th>LU④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18～20回</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> </tr> <tr> <td>21～23回</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>24～26回</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> </tr> <tr> <td>27～29回</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> 30. 後期のまとめ 								LU①	LU②	LU③	LU④	18～20回	青谷	打田	鳥居	花田	21～23回	打田	鳥居	花田	青谷	24～26回	鳥居	花田	青谷	打田	27～29回	花田	青谷	打田	鳥居
	LU①	LU②	LU③	LU④																												
18～20回	青谷	打田	鳥居	花田																												
21～23回	打田	鳥居	花田	青谷																												
24～26回	鳥居	花田	青谷	打田																												
27～29回	花田	青谷	打田	鳥居																												
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、フィールドワーク																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																															
教科書																																

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）																															
科目名	基礎演習																															
担当教員	花田 美和子																															
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活専攻の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的に開講されている。																															
授業の概要	コンピューターを用いた資料収集の方法、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術を修得する。 さらに、本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの4つのキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら、「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し、必要なデータや資料の収集のため、学外で授業を行うことがある。																															
到達目標	都市生活専攻で学ぶ分野へ関心を高める。 自分のキャリア・デザインを1年生の段階から描くことができる。 2年次以降の本専攻で学ぶための基礎知識と意欲を持つことができる。																															
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ 9. レポートの書き方Ⅱ 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ 14. フィールドワークⅡ 15. 夏休みの課題説明 <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 16. 夏休みの課題報告Ⅰ 17. 夏休みの課題報告Ⅱ 18～29：オムニバス形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す） <table style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>LU①</th> <th>LU②</th> <th>LU③</th> <th>LU④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18～20回</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> </tr> <tr> <td>21～23回</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>24～26回</td> <td>鳥居</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> </tr> <tr> <td>27～29回</td> <td>花田</td> <td>青谷</td> <td>打田</td> <td>鳥居</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> 30. 後期のまとめ 								LU①	LU②	LU③	LU④	18～20回	青谷	打田	鳥居	花田	21～23回	打田	鳥居	花田	青谷	24～26回	鳥居	花田	青谷	打田	27～29回	花田	青谷	打田	鳥居
	LU①	LU②	LU③	LU④																												
18～20回	青谷	打田	鳥居	花田																												
21～23回	打田	鳥居	花田	青谷																												
24～26回	鳥居	花田	青谷	打田																												
27～29回	花田	青谷	打田	鳥居																												
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、フィールドワーク																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）＋レポート（60%）による総合評価																															
教科書																																

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習Ⅰ						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得						
授業の概要	心理学の基礎的な実験方法と考え方について学びます。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者として実施し、データをまとめ、考察を加え、レポートを作成し、一連の実験研究過程を経験します。それらの手続きを通して、実験のやり方、データの分析法およびグラフの作成法を習得します。						
到達目標	心理学の基礎的な実験手法を説明できる。 エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。 データに基づいて考察を記述することができる。 図表を含めたレポートを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、班分け 2. レポートの書き方(1)－構成－ 3. レポートの書き方(2)－図表の作成－ 4. ミュラーリヤーの錯視(1)－解説－ 5. ミュラーリヤーの錯視(2)－実験の実施－ 6. ミュラーリヤーの錯視(3)－データの整理－ 7. 鏡映描写(1)－解説と実験－ 8. 鏡映描写(2)－データの整理－ 9. 自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験－ 10. 自由再生における系列位置効果(2)－データの整理－ 11. 要求水準(1)－解説と実験－ 12. 要求水準(2)－データの整理－ 13. 認知的葛藤(1)－解説と実験－ 14. 認知的葛藤(2)－データの整理－ 15. 講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとしておく。 授業後学習：1つのテーマが終わったら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを提出する。						
授業方法	実習形式でおこなう。						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）、実験への取り組み20%						
教科書							
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習Ⅱ						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得						
授業の概要	心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者として実施し、データをまとめ、考察を加え、レポートを作成し、一連の実験研究過程を経験する。それらの手続きを通して、実験のやり方、データの分析法およびグラフの作成法を習得する。						
到達目標	心理学の基礎的な実験手法を説明できる。 エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。 データに基づいて考察を記述することができる。 図表を含めたレポートを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方、班分け 2. 状態不安尺度(STAI)の受検と整理、解釈 3. 京大NX知能検査(1)－解説－ 4. 京大NX知能検査(2)－受検と評点－ 5. SD法によるイメージの測定(1)－解説と実験－ 6. SD法によるイメージの測定(2)－データの整理－ 7. SD法によるイメージの測定(3)－解析－ 8. 一対比較による好悪の尺度化(1)－解説と実験－ 9. 一対比較による好悪の尺度化(2)－データの整理－ 10. 一対比較による好悪の尺度化(3)－解析－ 11. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法(1)－解説と評定－ 12. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(1)－解説と評定－ 13. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(2)－整理と解釈－ 15. 講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとしておく。</p> <p>授業後学習：次の実験までに、その回の実験レポートを提出するようにする。</p>						
授業方法	実習形式でおこなう。						
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）、実験への取り組み20%						
教科書							
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅰ（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークをを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	家族関係を分析する諸概念や理論を解説する。それらの方法を、現実に行っている諸現象に適用して、その有効性と限界を確認する。また現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	高齢化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。 現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期と異性交際 2. 配偶者選択 3. 家族の概念と定義 4. 家族の形態とその変化 5. 少子化とその原因分析 6. 家族関係を分析する理論—役割理論— 7. 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— 8. 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 9. 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 10. 高齢社会と家族 11. 家族の多様化 12. 家族とグローバリゼーション 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代家族に関する資料を読み、その内容をまとめてレポートをしてくる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験（授業中の小レポート60% 期末試験 40%）						
教科書	よくわかる現代家族 ミネルヴァ書房 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著 ISBN 9784623053445						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活II（神戸論）						
担当教員	池田 清						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業では、都市社会のモデルとして近代的都市の典型として神戸を取り上げ、都市生活における政治的、行政的、経済的、文化的諸問題とこれからの課題を検証する。						
授業の概要	神戸の歴史を理解するために具体的事例から学ぶ。また阪神・淡路大震災を経験した都市として、被災地神戸の問題を検証することで、今後、都市で起こりうる災害に対する対処する方法と課題について考える。						
到達目標	これからのまちづくりは、自分の身近な生活や文化の視点から問題を考えることが大切である。						
授業計画	第1回 授業の狙いと概要の説明 第2回 神戸の歴史（古代） 第3回 神戸の歴史（中世） 第4回 神戸の歴史（近世） 第5回 神戸の歴史（近代） 第6回 神戸の歴史（現代） 第7回 神戸市の都市経営 第8回 神戸の文化とまちづくり 第9回 キリスト教とまちづくり 第10回 都市づくりと阪神・淡路大震災 第11回 神戸市の都市経営と阪神・淡路大震災 第12回 復興政策とまちづくり 第13回 復興災害と被災者の生活再建 第14回 真の復興とは 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど社会の動きに関心を持つ。						
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用する。						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30%						
教科書	プリント配布						
参考書	池田清「災害資本主義と憲法復興学」						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活III（情報社会）						
担当教員	打田 素之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本社会の分析						
授業の概要	現代日本の社会現象をサブカルチャー、伝統文化、精神分析の三つの側面から検討する。						
到達目標	社会現象の背後に隠されたメカニズムの解明						
授業計画	第1回 少年犯罪と社会（1） 第2回 少年犯罪と社会（2） 第3回 映画・ドラマに現れた大衆心理（1） 第4回 映画・ドラマに現れた大衆心理（2） 第5回 映画・ドラマに現れた大衆心理（1） 第6回 認められたい若者達（1） 第7回 認められたい若者達（2） 第8回 認められたい若者達（3） 第9回 男と女の性差（1） 第10回 男と女の性差（2） 第11回 男と女の性差（3） 第12回 少女マンガにおけるジェンダー（1） 第13回 少女マンガにおけるジェンダー（2） 第14回 少女マンガにおけるジェンダー（3） 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	・毎日、新聞を読むこと。 ・TV番組の「クローズアップ現代」（NHK、夜7時30分）、「WBSニュース」（テレビ大阪、夜11時）を見ること。 ・参考書として挙げられている本を読むこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、期末テスト50%。						
教科書	プリント配付						
参考書	土居隆義『少年犯罪（減少）のパラドクス』、岩波書店、2012年 山竹伸二『「認められたい」の正体』、講談社新書、2011年 齋藤環『関係する女 所有する男』、2009年 藤本由香里『私の居場所はどこにあるの？ 少女マンガが映す心のかたち』、朝日文庫、2008年						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅳ（共生社会）						
担当教員	辻野 理花						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	多文化共生について考える						
授業の概要	共生社会とは、民族、男女、世代、地域など様々な生活習慣、文化をもつ集団に属する人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていく社会のことである。21世紀はグローバル化が進み、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に互いを尊重しながら暮らしていく社会に必要なものはどのようなものであるか。現在、グローバル化や少子高齢化への対応を理由とした、本格的な外国人労働者、留学生、移民の受け入れの提言がなされている。これらのことも視野に入れて、様々な人々が共生するためにどのようなことを考えていったらよいかを共に考えたい。						
到達目標	日本社会の多様性についての理解を深める						
授業計画	<p>第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要① 第3回日本社会における在住外国人の概要② 第4回世界の中の日本 第5回在住外国人の受け入れのしくみ① 第6回在住外国人の受け入れのしくみ② 第7回日本社会の多様性を知る① 第8回日本社会の多様性を知る② 第9回日本社会の多様性を知る③ 第10回日本社会の多様性を知る④ 第11回多様な人々との共生① 第12回多様な人々との共生② 第13回多様な人々との共生③ 第14回多文化共生について考える 第15回まとめ</p> <p>講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろからテーマに関連するニュースを気をつけて知るようにしてください						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	授業中に書いてもらう小レポート、小テスト（複数回）、課題、および平常点で評価する。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。 グローバル化時代の日本型多文化共生社会 著 駒井洋（明石書店）						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活V（都市文化）						
担当教員	池田 清						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化は、一般に絵画、音楽、彫刻などを指すが、この授業では、都市における衣・食・住などの生活文化を対象とする。						
授業の概要	都市の衣・食・住などの生活文化を、単なるモノやサービスとして評価するのではなく、その都市に固有の文化を担うもの、と位置づける。						
到達目標	都市の発展は、都市の文化を蓄積し、国際的な知識や技術と結合することが必要である。この授業は、都市文化と都市発展との関係を考える。						
授業計画	第1回 授業のねらいと概要 第2回 文明と文化 第3回 古代文明と文化 第4回 中世の文明と文化 第5回 近代文明と文化 第6回 チャップリン「モダンタイムズ」 第7回 生活と文化 第8回 神戸における多文化共生の取り組み 第9回 食文化と健康 第10回 食文化と農林漁業 都市と農村 第11回 生活の芸術化 第12回 文化とモラル 第13回 文化によるまちづくり 第14回 食文化と環境問題 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	都市文化に関する新聞やニュースなど社会の動向に関心を持つ						
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用し具体的事例をあげて学ぶ						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30%						
教科書	授業のときに指示する						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	竹田 美知						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	授業では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	知識 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。 能力 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成（4）：プリテストと調査票の最終チェックを行う</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。また調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。						
教科書	関連する資料を随時配布する。						

参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子 2008、「社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子 2008、「社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2010、「入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ」法律文化社
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	松原 千恵						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	授業では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。本授業で得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
到達目標	調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理など、質問紙調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士資格との関連について。 社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～ ：データブックなどを参照し、社会調査によって得られるデータについて理解する。 社会調査のプロセス ：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～ ：調査を具体化するために、問いの立て方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）。</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～ ：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何か、どのように検証するのか～ ：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～ ：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数/量的変数）。</p> <p>第6回 調査対象者の選定～誰を対象とするのか～ ：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～ ：単純無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～ ：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1） ：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2） ：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3） ：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）。</p> <p>第12回 調査票の作成（4） ：プリテストと調査票の最終チェックを行う。</p> <p>第13回 調査の実施 ：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1） ：回収された調査票の点検、エディティング、コーディング、有効票・無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2） ：調査票からコンピュータへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。 調査報告とデータ管理 ：調査報告の方法とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介編, 2005, 『社会調査へのアプローチ〔第2版〕』ミネルヴァ書房 嶋崎尚子, 2008, 『社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール』学文社. 西野理子, 2008, 『社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール』学文社. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社.

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	松原 千恵						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	授業では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。本授業で得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。						
到達目標	調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理など、質問紙調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の目的、内容、社会調査士資格との関連について。 社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～ ：データブックなどを参照し、社会調査によって得られるデータについて理解する。 社会調査のプロセス ：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～ ：調査を具体化するために、問いの立て方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）。</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～ ：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何か、どのように検証するのか～ ：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～ ：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数/量的変数）。</p> <p>第6回 調査対象者の選定～誰を対象とするのか～ ：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～ ：単純無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～ ：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成（1） ：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。</p> <p>第10回 調査票の作成（2） ：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成（3） ：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）。</p> <p>第12回 調査票の作成（4） ：プリテストと調査票の最終チェックを行う。</p> <p>第13回 調査の実施 ：実査の方法について学ぶ。</p> <p>第14回 調査データの整理（1） ：回収された調査票の点検、エディティング、コーディング、有効票・無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理（2） ：調査票からコンピュータへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。 調査報告とデータ管理 ：調査報告の方法とデータ管理について学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介編, 2005, 『社会調査へのアプローチ〔第2版〕』ミネルヴァ書房 嶋崎尚子, 2008, 『社会調査のリテラシー1 社会をとらえるためのルール』学文社. 西野理子, 2008, 『社会調査のリテラシー2 社会をはかるためのルール』学文社. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社.

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	松原 千恵						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析、グランデッド・セオリー・アプローチなどの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、問題設定や仮説にもとづき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析（1）～文字・活字データを分析しよう～ ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを変換し、分析する方法を学ぶ。データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析（2）～文字・活字データを分析しよう～ ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析（3）～文字・活字データを分析しよう～ ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析（4）～文字・活字データを分析しよう～ ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析（1）～音声データを分析しよう～ ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析（2）～音声データを分析しよう～ ：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析（3）～音声データを分析しよう～ ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析（4）～音声データを分析しよう～ ：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析（1）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析（2）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析（3）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析（4）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。 評						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著, 2010, 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	松原 千恵						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析、グランデッド・セオリー・アプローチなどの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、問題設定や仮説にもとづき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析（1）～文字・活字データを分析しよう～ ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析（2）～文字・活字データを分析しよう～ ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析（3）～文字・活字データを分析しよう～ ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析（4）～文字・活字データを分析しよう～ ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析（1）～音声データを分析しよう～ ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析（2）～音声データを分析しよう～ ：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析（3）～音声データを分析しよう～ ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析（4）～音声データを分析しよう～ ：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析（1）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析（2）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析（3）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析（4）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。 評						

教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著, 2010, 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査論						
担当教員	佐々木 洋子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査について、理論や技法などの基礎的事項を学ぶ。						
授業の概要	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査が出来るようになるための基礎的事項を解説する。これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として、社会調査の意義、用途を解説する。さらに資料の収集、調査の設計から、現地調査の実施の方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを、量的・質的調査の双方について概説する。また社会調査の全過程における調査倫理について理解をはかる。						
到達目標	社会調査の基礎的な理論や技法を習得し、実際に社会調査が出来るようになる。						
授業計画	第1回 社会調査の意義と用途 第2回 社会調査の歴史 第3回 社会調査のうそ 第4回 問題意識の明確化 第5回 関連データ収集一定量データと定性データ 第6回 概念・指標・変数 第7回 仮説構成とモデルづくり 第8回 実査と調査倫理 第9回 調査の種類と実例Ⅰ 調査目的別（学術調査・マーケティング調査・官公庁統計・世論調査） 第10回 調査の種類と実例Ⅱ 調査時点別（クロスセクションサーベイ・継続調査・パネルサーベイ） 第11回 調査の種類と実例Ⅲ 調査地点別（地域調査・全国調査・国際比較調査） 第12回 量的調査と質的調査 第13回 統計調査と事例研究法 第14回 二次データの利用 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義中に紹介する社会調査およびテレビ、新聞、インターネットなどで見かける社会調査について調べること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業内課題（20%）期末テスト（80%）						
教科書	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編，2013『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房 9784623066544						
参考書	轟亮・杉野勇編，2013『入門・社会調査法〔第2版〕——2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社 9784589034892 その他、随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品衛生学						
担当教員	武智 多与理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	食品衛生の基礎						
授業の概要	食品の品質を損なうことの最大の原因が、微生物といっても過言ではない。安全性についていえば、食中毒病因物質の85%以上が細菌である。食品の安全性を確立するには、微生物の制御が大きな割合を占めていると言える。本講義では、前半、微生物について、後半、食品をめぐる環境及び安全性の確立について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物の特性を挙げることができる。 ・食品の腐敗・変敗の機構を述べるができる ・代表的な食品の腐敗・変敗の防止法を説明できる。 ・食品をめぐる環境について列挙し説明できる。 ・食品の安全流通と安全管理の方法を挙げることができる。 ・フードスペシャリスト資格試験の過去問を解けるようになる。 						
授業計画	第1回 概論 食品衛生学とは 第2回 食品の腐敗・変敗とその防止① 第3回 食品の腐敗・変敗とその防止② 第4回 小テスト1、食中毒① 第5回 小テスト1解説、食中毒② 第6回 食中毒③ 第7回 食中毒④、小テスト2 第8回 小テスト2解説、食品の安全性の確保 第9回 家庭における食品の安全保持 第10回 環境汚染と食品 第11回 器具および容器包装、小テスト3 第12回 小テスト3解説、水の衛生 第13回 食品の安全流通と表示 第14回 食品の安全流通と表示、食品の安全管理 第15回 まとめ、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	受講状況(10%)、期末試験(50%) 小テスト(40%)で評価する。						
教科書	改定 食品の安全性（第3版） 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 その他、適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学実験						
担当教員	武智 多与理						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	加工食品の製造と理解						
授業の概要	加工食品は、食品素材の保存あるいは栄養性や嗜好性の改善などを目的として作られてきたものであるが、最近の加工技術の進歩には、目覚ましいものがある。本実習では、実際の加工操作を通して、原材料の種類や量などを実感し、それぞれの工程を具体的に把握する。また、実際に加工したものと市販品との違いなどから、現在の加工技術の進歩や食品添加物の現状などについて考える。以上のことを実践するために、穀類、豆類、イモ類、果実・野菜類、畜産物などの加工品について、それぞれ例をあげ実習・実験を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・加工食品を実際に製造することにより、製造方法を述べるようになる。 ・製造した加工食品の特徴を述べるようになる。 ・実験で取り上げた加工食品について、市販のものに使用されている可能性のある食品添加物を挙げ説明することができるようになる。 ・フードスペシャリスト資格試験の過去問が解けるようになる。 						
授業計画	<p>第1回 実習における緒注意、実習の内容説明 第2回 豆類の加工：味噌の仕込み 第3回 果実、野菜類の加工：ジャム 第4回 畜産物の加工：バター、チーズ 第5回 穀類の加工：うどん 第6回 海藻類の加工：寒天 第7回 イモ類の加工：コンニャク 穀類の加工：パン（発酵パン）、畜産物の加工：バター、マヨネーズ 第8回 野菜類の加工：トマトケチャップ 第9回 果物類の加工：みかんの缶詰 第10回 米粉の加工：うるち米、もち米の加工実験 第11回 豆類の加工：味噌の塩分定量 第13回 穀類の加工：パン 第14回 穀類の加工：餅 第15回 実習のまとめ</p> <p>* 実習内容（メニュー）の順序が変更になることがある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおくこと 授業後：実習実施後は、各回レポートの提出を求める。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講状況30%（欠席は減点）、レポート70% により評価する。						
教科書	<p>食品加工学実験書 著 森 孝夫編著（化学同人） その他、適宜プリント配布</p>						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学総論						
担当教員	武智 多与理						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画							
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
教科書							
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学総論						
担当教員	橘 ゆかり						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の科学的な性質を総合的に理解する。						
授業の概要	食品がいかに栄養豊富であっても、食べられなくては役に立たない。したがって、食べ物は「美味しさ」が重要な要素といえる。「美味しさ」は単に味だけの問題でなく、色や香り、そして触覚（手触り歯触り等）が重要な因子である。さらには食環境も含めて、脳が総合的に判断することである。本講では最初に「美味しさ」に関係する因子とその重要性、次いで食べ物の原料である食品の二次機能、即ち色・味・香について主に化学的側面から論じる。そして触覚に関係する物性についても述べる。						
到達目標	食品成分の科学的性質を理解し、食品の科学的な特徴が説明できる。						
授業計画	第1回 食品の分類 第2回 食品の分類とその特性・評価：植物性食品① 第3回 食品の分類とその特性・評価：植物性食品② 第4回 食品の分類とその特性・評価：植物性食品③ 第5回 食品の成分と特徴：炭水化物 第6回 食品の分類とその特性・評価：動物性食品① 第7回 食品の分類とその特性・評価：動物性食品② 第8回 食品の成分と特徴：たんぱく質 第9回 食品の成分と特徴：脂質 第10回 食品の栄養素と水 第11回 食品の成分と特徴：ビタミンと無機質 第12回 食品の嗜好成分：嗜好成分 第13回 食品の成分間反応 第14回 調味料と嗜好飲料 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の予習および復習						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験60%、小テスト・レポート25%、平常点15%						
教科書	大石祐一・服部一夫編 「食べ物と健康 食品学」（光生館）						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品の流通論						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	食料（食品）の生産・流通・消費までの流れを具体的かつ総合的に把握することを目的とする。						
授業の概要	世界的にフードシステムが変化している。その要因は、所得の上昇や家族生活の変化、供給側の対応などが考えられている。情報・技術の発達によりますますこの傾向は強くなるが、ここでは食生活の外部化に依存している家族の食生活の変化・実態や提供側である小売業の実態と変化、さらに生鮮食品を扱う様々な分野ごとの流通と消費実態を考察した上で、フードマーケティングの視点から今日の食料（食品）問題と流通のシステムの変化について考えていく。						
到達目標	①生産現場の仕組みを理解し、特徴を説明することができる。 ②生産されたモノが消費者に渡るまでの流通プロセスを理解し、現代の流通の課題について自らの考えを述べる ことができる。 ③具体的な事例をもとに、流通の仕組みについて批判的に捉える事が出来る。						
授業計画	第1回目 消費者の変化と食生活 第2回目 食品流通と食品市場① ー食品小売業とスーパーマーケットー 第3回目 食品流通と食品市場② ー外食産業とコンビニエンスストアー 第4回目 PBとNBとは何か 第5回目 食品流通と食品市場③ ー卸売市場ー 第6回目 食品流通と食品市場④ ー食品卸売市場ー 第7回目 食品流通と食品市場⑤ ー生協の共同購入ー 第8回目 鮮魚のフードシステム 第9回目 食肉のフードシステム 第10回目 野菜・果物のフードシステム 第11回目 加工食品の流通と消費（学外実習） 第12回目 清涼飲料・輸入食品の流通と消費 第13回目 食品消費と環境問題 第14回目 消費スタイルと流通技術 第15回目 今日の食問題（課題）・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	①スーパーや百貨店をはじめコンビニなどがどのように食品を扱おうとしているのか（扱っているのか）、現場を見ること。 ②新聞を必ず読むこと（特に食品問題）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験50%、レポート（2回）30%、発表20%						
教科書	日本フードスペシャリスト協会編『食品の消費と流通ーフードマーケティングの視点からー』建帛社、2000年。						
参考書	石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎、その他授業中に随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	色彩学						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。						
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に着ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。						
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる。 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる。 色と光の関係について科学的に説明することができる、 生活と色に関する諸問題について考察することができる。						
授業計画	第1回：色の性質、色と心理 第2回：色を表し、伝える方法（色の表示方法とその特徴） 第3回：カラーオーダーシステム（マンセルシステム） 第4回：カラーオーダーシステム（CGIC） 第5回：カラーオーダーシステム（PCCS） 第6回：配色と色彩調和（色彩調和の考え方） 第7回：配色と色彩調和（配色） 第8回：配色と色彩調和（主な色彩調和論と調和の原則） 第9回：光から生まれる色 第10回：色が見える仕組み 第11回：色の測定 第12回：混色と色再現 第13回：色と文化 第14回：試験 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前にテキストを読んでおくこと。						
授業方法	講義、一部演習を含む。						
評価基準と評価方法	平常点（40-60%）、試験（40-60%）						
教科書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所（中央経済社） 「新配色カード199b」日本色研事業株式会社						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学I（衣）						
担当教員	市川 祥子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	衣服学入門						
授業の概要	生活の中で衣服をどのように捉え、考えていくべきか、という視点に立ち、衣服に関する様々な知識を深める。本講義では、繊維製品としての衣服の科学的理解（被服材料学・被服整理学）をはじめ、社会・文化の影響を受けながら変化するリアルクローズとしての衣服（被服心理学）、また人の一生を通じた衣服のあり方を捉えながら（被服構成学）、人体の生理や健康と衣服との関係を考える（被服衛生学）、といった衣服に関する様々な学問の概観を学ぶ。また、ファッションビジネスや現代社会における衣服に関わる諸問題などについても講義する。						
到達目標	衣服やファッション、繊維などに対する幅広い知識を深めると同時に、各自なりの考え（問題意識）を抱き、今後の勉学に活用する。また、衣服に対する科学的視点を養い、充実した衣生活を送れるようになる。						
授業計画	第1回 衣服学とは 第2回 衣服の歴史—ヨーロッパと日本の衣服— 第3回 衣服と生活—風土・社会・文化と衣服の役割— 第4回 衣服の着衣動機—装飾・整容・変身行動— 第5回 衣服の素材・加工・性能 第6回 衣服の品質と管理—特性とメンテナンス— 第7回 衣服と人体の生理—快適性・機能性とデザイン— 第8回 衣服の着心地—装いと健康— 第9回 ライフスタイルと衣服—ライフサイクルとの関係— 第10回 衣生活と福祉—衣服とユニバーサルデザイン— 第11回 ファッションビジネスとマーケティング—企画と流通— 第12回 衣服の廃棄とリフォーム 第13回 衣服のリサイクルと環境保全 第14回 衣服の製造と消費に関わる諸問題 第15回 総括と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：特に必要ないが、普段から衣服の品質表示を見て、繊維の種類に対する知識を深めたり、自分にとっての衣服とは何かなど、衣服について考える機会を積極的に持つこと。 授業後学習：講義の内容を各自整理し、疑問点は自ら調べるか、教員に質問するかして解決すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 30%、レポート 30%、最終試験 40% 遅刻及び欠席は、平常点より減点する。						
教科書	特に使用しない。必要に応じてレジュメ、資料を配付する。						
参考書	岡田宣子（編著）『ビジュアル衣生活論』（建帛社） ISBN978-4-7679-1445-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学II（食）						
担当教員	武智 多与理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。						
授業の概要	「食」は生きていくための基本的な行いで、食品をもとにそれをいかに食べるかということでこれまでの人の長い歴史の中で食文化が形成されてきた。特に、健康と食生活は密接な関係し、生涯健康な生活を送るということの大切さが言われる時代である。この授業は、食生活と健康づくりの観点から、栄養、調理、食文化、ライフサイクルと食生活、体のリズム、食の安全、食環境、食育について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養についての小テスト1の問題に回答できるようになる。 ・食生活、調理、食文化についての小テスト2の問題に回答できるようになる。 ・食生活と健康についての小テスト3の問題に回答できるようになる。 						
授業計画	第1回 食とは、概要解説 第2回 食生活と栄養（糖質・脂質） 第3回 食生活と栄養（タンパク質・ビタミン） 第4回 食生活と栄養（ミネラル・水） 第5回 食生活と食品の成分（アルコール、嗜好品、免疫力） 小テスト1 第6回 小テスト1解説、食生活と調理 第7回 食生活と食文化（米文化と小麦文化） 第8回 食生活と食文化（食事様式、マナー、旬）、小テスト2 第9回 小テスト2解説、ライフサイクルと食生活（成長期） 第10回 ライフサイクルと食生活（成人期以降） 第11回 体のリズムと食生活 第12回 食生活と安全 第13回 食生活と環境、小テスト3 第14回 小テスト3解説、食育 第15回 まとめ、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容について予習、復習を行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	受講状況20%、小テスト40%、期末テスト40%						
教科書	「食生活と健康づくり」加藤秀夫・三好康之・鈴木 公・泉公美子編 化学同人 適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学III（住）						
担当教員	増永 理彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	住居に関する基礎的知識の修得、住まいの再生の理解						
授業の概要	都市生活専攻学生の、衣食住の中で数少ない住分野の入門として、住居の基本概要および現代の住に関する重要介護テーマである住まいの再生を理解する。						
到達目標	日本の住まいの特徴、住居の歴史、住居の間取り、現代の課題（特に住まいの再生）などの基礎項目について、自分の言葉で語れるようになること						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、住まいの色々（スライド） 2. 日本の住まいの特徴 3. 住居の歴史・・・中世まで（スライド） 4. 住居の歴史・・・近代（スライド） 5. 住居の歴史・・・現代（スライド） 6. これからの住居・・・スライド 7. 間取りの特徴・・・ 8. 間取の特徴・・・自宅の間取り図作成 ・レポート＋発表＋小テスト 9. 住まいの再生とは 10. 公共賃貸住宅の再生実態 11. 公共賃貸住宅の再生の在り方 12. マンション再生実態・・・建替えの実態 13. マンション再生実態・・・リノベーションの実態 14. マンション再生のあり方・・・ 15. 学生からのマンション再生提案、小テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>住まいは、生活の最重要基盤であり、新聞でも家庭欄に限らず、社会面や経済面でもよく記事が書かれている。日々の新聞をよく読むことが大事（新聞取っていない学生は図書館にある）。あるいは、自分の住んでいる住まいを見回し、その問題・改善点あるいは再生のあり方についてを積極的に考えること。</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用する以外に、プリント配布あるいはビデオ、スライドなどを活用する。 ・毎回、住居等に関する質問を受け付ける。次回にコメントをするなど、双方向の授業とする。 ・資料の読み合わせを行なうことで、キーワードを覚えるようにする 						
評価基準と評価方法	平常点：30%、小テスト＋レポート70%						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・増永理彦著、マンション再生一二つの” 古い” への挑戦一、クリエイツかもがわ、ISBN978-4-86342-117-2 						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・その他授業中に適宜紹介する 						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学Ⅳ（ヒト）						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活と関係するヒトの身体の仕組みを脳の働きを中心に考察する。						
授業の概要	生活のなかでのトピックを挙げ、ヒトの身体のなかで生じる構造や機能の変化や状態を知る。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの脳やホルモンの働き、遺伝に関する基本的な用語の説明をすることができる。 2. 生活の中で生じる行動と、対応する身体の変化を解説することができる。 3. 行動に関する事例を挙げ、それについて自分の考えを述べるることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の紹介 2. 脳と知能 3. 脳の発達 4. 脳とホルモンの性差 5. 性格や知能と遺伝 6. 遺伝と環境 7. 両親からの遺伝 8. 高齢出産と遺伝 9. 共感 10. 意欲 11. ストレス反応 12. 疲労 13. 依存症 14. 幸福感 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回講義のテーマに関して自分の身の回りにある疑問を言語化する。						
授業方法	講義形式で授業を実施する。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)、試験(70%)						
教科書	プリントを適宜用いる。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活学概論						
担当教員	竹田 美知						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生活について、その変化のメカニズムや生活をとらえる方法について理解し、生活問題を解決するための家族支援のスキルを学び、個人、家族、地域社会のウェルビーイングを目指す態度を育成する。						
授業の概要	現代家族の状況を包括的に理解し、家族の問題と発達課題に適切に対応・支援するベーシックスキルを使用して問題の発生を未然に防ぐ力を身につける。前半では家族生活支援の基本と方法を理解し、家族支援のスキルを学ぶ。後半ではそれらのスキルを応用して、個人、家族、地域生活の問題を解決する力を身につける。						
到達目標	知識・理解： 現代家族の生活について地域・社会的背景を視野にいれてその変化を知り、変化を説明することができる。個人のライフコースにおける発達課題を専門用語を使い説明できる。 汎用技能： グループ討論やプレゼンテーションによって家族支援のスキル（コミュニケーション・問題解決・マネージメント）を身につけ、生活問題の解決策を提示できる。						
授業計画	第1回 生活学とは—家族生活支援を中心に— 第2回 地域社会と家族 I 第3回 家族と個人化 第4回 ライフコースを家族生活 第5回 家族生活とジェンダー 第6回 パートナーの選択 第7回 親になることと子育て 第8回 キャリア・デザイン 第9回 高齢者と家族生活 第10回 衣・食・住のベーシックスキル 第11回 生活時間のマネージメント 第12回 生活経済のマネージメント 第13回 生活情報のマネージメント 第14回 家族生活と法・制度 第15回 まとめと試験 m-take						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前 おく。： 授業前に教科書を必ず読む。前の授業でしめされた参考書も参照して事前にわからないことを調べておく。 授業後 ： 教科書にしめされたワークショップを行いその結果をまとめて発表する用意をしてくる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業中のレポートおよび授業外のレポート（40%）と試験2回（60%）による総合評価						
教科書	家族生活の支援—理論と実践— 建帛社 日本家政学会家政教育部会編 2014年3月発行予定						
参考書	家族生活教育 人の一生と家族 レイン・H/パウエル ドーン・キャシディ 倉元綾子・黒川衣代監訳						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動I（衣行動）						
担当教員	牛田 好美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。						
授業の概要	人が被服を着用することには、身体保護や生命維持、健康増進などの目的がありますが、さらに、社会的、心理的な目的もあります。たとえば、被服によって社会的地位を示したり、変身願望を満たしたり、外見的魅力を高めたり、周囲へ同調したりすることです。この授業では、こうした社会的・心理的效果をもつ被服行動について学習し、被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。						
到達目標	被服の社会的・心理的機能を理解し、日常生活をよりよく営める能力を養います。						
授業計画	第1回 被服への社会心理学的アプローチ 第2回 被服と自己意識（1）ボディ・イメージとは 第3回 被服と自己意識（2）社会で形成されるボディ・イメージ 第4回 被服と対人認知（1）印象形成 第5回 被服と対人認知（2）自己管理、自己呈示、役割理論 第6回 被服と非言語的コミュニケーション 第7回 被服と対人行動 第8回 被服と集団行動 第9回 被服とジェンダー 第10回 流行の普及と採用 第11回 個人発表（1） 第12回 個人発表（2） 第13回 個人発表（3） 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	普段から、新聞や雑誌などをよみ、社会情勢に敏感になっておいてください。						
授業方法	主に、講義形式でおこないますが、テーマに沿った個人発表もおこないます。必要に応じて資料を配布します。						
評価基準と評価方法	授業参加度（30%）、授業中の発表（20%）、レポート（20%）、試験（30%）により総合的に評価します。						
教科書	21世紀の社会心理学シリーズ8 高木修（監修） 被服行動の社会心理学 神山進（編）北大路書房						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動II（食行動）						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	食行動の心理学						
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動である。この授業では、離乳期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を列挙し、説明することができる。 2. 個人や社会における食問題についてまとめ、自分の考えを述べることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 離乳期までの食行動(1)－母乳とミルク－ 3. 離乳期までの食行動(2)－母乳のでの仕組み－ 4. 離乳期までの食行動(3)－母乳の心理的側面－ 5. 幼児期の食行動(1)－味覚の発達－ 6. 幼児期の食行動(2)－食物嗜好と拒否の発達－ 7. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(1)－テーマ設定－ 8. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(2)－アイデア出し－ 9. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(3)－発表－ 10. 児童期の食行動(1)－特徴と問題点－ 11. 児童期の食行動(2)－食行動と身体の状態－ 12. 児童期の食行動(3)－食卓の絵からの考察－ 13. 青年期の食行動(1)－思春期の心と体の病気－ 14. 青年期の食行動(2)－摂食障害－ 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：次回の授業の内容に関する疑問を言語化する。</p> <p>授業後学習：実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。</p>						
授業方法	主に講義形式。演習も実施する。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)、試験(70%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	<p>「人間行動学講座2 たべる－食行動の心理学－」 中島義明、今田純雄編 朝倉書店 1996 4800円</p> <p>「母乳」 山本高治郎著 岩波新書 1983 490円</p> <p>「未熟児」 山内逸郎著 岩波新書 1992 580円</p> <p>「子どもと家族とまわりの世界(上) 赤ちゃんはなぜなくの」 D・W・ウィニコット著 星和書店1985 1400円</p> <p>「知っていますか 子どもたちの食卓－食生活からからだの心が見える－」 足立己幸 NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト 日本放送出版協会 2000 1500円</p>						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動III（住行動）						
担当教員	西田 潔史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「人」と「住まい」との関わりについて考えます。						
授業の概要	これからの住まいは、人それぞれの多様な生き方に適切に対応するものでなければなりません。それと同時に地域の歴史や風土との調和も大切なことです。私達の求める快適な住空間とはどのようなものであるか、また、物としての住宅をより快適な人間生活の容器へと変容させるには何が必要か、そして我々がそこで「いかに住まうか」を考察します。						
到達目標	「人」と「住まい」について様々な観点から考察することによって、人間の生活について広い視野で思考するための基礎をつくります。						
授業計画	第1回 いろいろな住まい1：風土と住まい 第2回 いろいろな住まい2：近代・現代の住まい 第3回 住まいと家族 第4回 インテリアデザイン 第5回 住まいのメンテナンス 第6回 住まいと健康1：日照、日射、採光 第7回 住まいと健康2：換気 第8回 住宅問題1：狭小住宅 第9回 住宅問題2：老朽住宅 第10回 住まいの歴史1：竪穴式住居、平地式住居 第11回 住まいの歴史2：高床式住居、一間取・二間取・四間取住居 第12回 住まいの歴史3：寝殿造り、書院造り 第13回 住まいの歴史4：洋風住宅、中廊下型住宅、公団住宅 第14回 地域生活と住まい1：コミュニティ 第15回 地域生活と住まい2：近代の地域計画						
授業外における学習（準備学習の内容）	・受講のあり方 自身の生活空間における経験を振り返りながら、講義やテキストの内容と照らし合わせ実践的に理解する。 ・予習のあり方 授業計画に示したキーワードについて自分自身で調べてみる。 ・復習のあり方 講義内容について疑問点を整理し自ら調べる。残った疑問点については次回に質問する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席等授業態度（40%）、試験（60%）						
教科書							
参考書	「住まい15章」改訂版 住まい15章研究会編 学術図書出版社 ISBN：4873618126						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動Ⅳ（消費行動）						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	私たちはなぜ買い物をするのか						
授業の概要	現代社会は大衆消費社会と位置付けることができる。買い物の無い生活など考えられず、何を買うか選択することが、生活の中で大きな位置を占めている。しかし、「なぜその商品がほしいのか」を例え自分のことであっても正確に理解できるとは限らない。また自分が「その商品を選んだ理由」を誤解している場合があることが心理学などの研究から明らかになっている。買い物が生活の中心であるからこそ、私たちは、なぜ買い物するのかを客観的に見る目を持たなければならない。この授業の一つの目的は、心理学、行動経済学の研究成果から人間が買い物する時に示しがちな行動傾向を知ることであり、二つ目の目的は、そもそも欲望や欲求とは何であるのか心理学を中心に学び、どのような欲求に基づいて買い物するのかを考えることである。そして、最後に過剰な消費社会における欲求のコントロールについて考える。						
到達目標	買い物の際に人が示す認知・行動傾向の基本を説明できるようになる。 なぜ私たちが買い物をするのか心理面から分析できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめにー私たちはなぜ買い物をするのか 2. 行動経済学と心理学 3. 人は合理的な選択ができない1 4. 人は合理的な選択ができない2 5. 単純接触効果 6. フレーミングとアンカリング 7. 説得と抵抗1 8. 説得と抵抗2 9. 欲求とは何か1：動因と基本的欲求 10. 欲求とは何か2：内発的動機と親和動機 11. 欲求とは何か3：達成動機と自己実現動機 12. 欲求の模倣 13. 欲求のコントロール1：買い物依存の心理 14. 欲求のコントロール2：大衆消費社会と欲求 15. なぜ欲求のままに行動してはダメなのか 						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容をレポートに結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題50%とレポート（中間・期末）50%						
教科書	使用しない						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動V（健康心理学）						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	健康に暮らすために関わりのある心理学						
授業の概要	日常生活や人生においてこころを健康に保てるよう、各領域での問題を取りあげる。具体的には、こころを心理学的にどのようにとらえるか、性格を測定できるのか、思春期、青年期、成人期、高齢期における心理学的課題、日常で起こるヒューマンエラーなどについて考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころの測定法、性格の分類や問題、ライフサイクルにおける発達課題、心理的エラーについての基本概念を説明できる。 2. 図表からわかることを文章で表現することができる。 3. パーソナリティ、年代ごとの発達課題、心理的エラーの特徴や問題点について自分の考えを述べるができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. こころは測定できるか 3. 性格の検査 4. 疾病とパーソナリティ 5. こころの発達 6. こころの問題 7. 思春期のこころの健康－心身の変化－ 8. 青年期のこころの健康－アイデンティティの確立、モラトリアム－ 9. 成人期と高齢期のこころの健康－仕事、家庭、老い、死－ 10. 注意の錯覚(1)－日常の例－ 11. 注意の錯覚(2)－事故の例－ 12. 記憶の錯覚(1)－記憶のすりかえ－ 13. 記憶の錯覚(2)－目撃者の証言－ 14. 原因の錯覚 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：次回の授業の内容に関係する疑問を言語化する。</p> <p>授業後学習：実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。</p>						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	授業態度(20%)、試験(80%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動VI（社会）						
担当教員	松原 千恵						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーションをキーワードに、現代社会の諸事象を社会的に考察する						
授業の概要	現代の社会生活において、コミュニケーションは重要視される観念の一つです。世代や領域を問わず、個人のコミュニケーション能力の獲得が課題として掲げられることは多く、その必要性を理解することは現代人にとって自明のものとなっています。この講義では、そもそもコミュニケーションとは一体どのように成り立ち、また、なぜ現代社会において重要視されているのかを、社会学の諸概念に触れながら理解していくことを目的とします。毎回さまざまな日常的な生活経験を題材にしながら、コミュニケーションをキーワードに、一見個人的にみえるさまざまな営みを社会的な現象として問いなおしていきます。						
到達目標	①現代社会におけるコミュニケーションの意味と在り方について説明することができる ②自分の身近な生活経験を社会的コミュニケーションの視点から解説できる ③ディスコミュニケーション（コミュニケーションの失敗）状態を打開するための方法を自分なりに考え、表現することができる						
授業計画	①ガイダンス、アイスブレイク（ディスカッション） ②そもそもコミュニケーションとは何か ③ディスコミュニケーションとは：ジンメル社会学を頼りに ④相互作用としての自己呈示：ゴフマン、フーコーを参考に ⑤「ふつう」をめぐるコミュニケーション（1）：誰のためのルール？（社会規範） ⑥「ふつう」をめぐるコミュニケーション（2）：誰にとっての問題？（クレーム問題） ⑦「ふつう」をめぐるコミュニケーション（3）：正常と逸脱の境界線（逸脱論、リスク） ⑧「おとな」をめぐるコミュニケーション（1）：～として生きる（役割論、ラベリング論） ⑨「おとな」をめぐるコミュニケーション（2）：社会的アイデンティティの主観的経験（社会問題） ⑩「おとな」をめぐるコミュニケーション（3）：集団とコミュニケーション（家族論ほか） ⑪「わたし」をめぐるコミュニケーション（1）：関係の中の孤独（社会的自己論） ⑫「わたし」をめぐるコミュニケーション（2）：身体社会性（スティグマ、消費文化ほか） ⑬コミュニケーションの舞台装置（1）：マス・メディア ⑭コミュニケーションの舞台装置（2）：パーソナル・メディア ⑮まとめ：コミュニケーションスキルはなぜ重要か、その現代的意味						
授業外における学習（準備学習の内容）	・授業はただ聴くだけの受け身になるのではなく、常に具体例を考えながら、自分を思考力を向上させるつもりで臨んでください。その点からコメントされた事柄（題材のリクエストや授業に関連した質問）については大いに歓迎します。 ・授業中だけでなく、日頃から周囲をよく観察し、さまざまな出来事について、自分自身の意見をその都度書き留め、まとめた言葉にしておくといよいでしょう。 ・欠席時の内容やレポート等の提出課題については各自内容を確認し自習すること。						
授業方法	講義を中心に、場合によりディスカッションやビデオ鑑賞等のグループワークを行う。基本的に、毎回授業後に理解度のチェックや講義計画や内容の修正を行う参考にするためミニレポート提出を求める。ミニレポートは当日提出できない場合は次回提出可とする。						
評価基準と評価方法	毎回講義内容の理解度を確保するためのミニレポートの内容と、ワーク参加姿勢：50%、期末レポート：50%、で総合的に評価します。 ただし、 ・5回以上欠席している場合は成績評価しない。 ・欠席時の課題評価、または未提出の課題、条件を満たさない課題については提出点を「0」にする。 ・私語等で他の受講者の学習機会を妨げている者については退室を求め、欠席扱いにします。						
教科書	授業中にプリントを配布する。						
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察						
授業の概要	心理学の基礎的な概念を学ぶとともに、日常行動や心理学周辺領域と心理学との関わりを考える。また日常行動として化粧行動を取り上げ、具体的事例をとおして理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。 2. 図表からわかることを文章で表現できる。 3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 化粧行動の心理学的意味 3. 生物学と心理学 4. 化学と心理学 5. 知覚（触覚） 6. 対人魅力 7. 知覚（視覚） 8. 発達 9. 人格 10. 認知 11. 感情 12. 人間工学 13. 医療分野と心理学 14. 免疫と心理学 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：次回の授業の内容に関する疑問を言語化する。</p> <p>授業後学習：実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。</p>						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	授業態度(15%)、小レポート(15%)、試験(70%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムI（ライフライン）						
担当教員	池田 清						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	首都直下地震や南海トラフなど巨大災害が、30年以内に7割の確率で起きる時代になった。「異常の日常化と日常の以上化」の時代でもある。本講義では、現代が災害の時代であり、それに事前に対処する方法と事後の復興の問題と課題について考える。						
授業の概要	<p>都市生活はハード的側面とソフト的側面の複雑なシステムで構成されているため、災害時にはそれらを浮きだたせるという特徴がある。そこで本講義では、公共サービスを中心としたインフラとしてライフラインや、私たちの生活をなりたせている基本的人間関係や社会関係というソフトとしてのライフライン（いわゆる生命線）が、都市生活をどのようになりたせているかについて講義する。</p> <p>災害時に現れる普段見えにくい人間関係や社会関係、さらに生活の様々な問題について、阪神大震災も含め、災害という視点から生活をとらえることによって、私たちの生活を成り立たせているシステムについての理解を深めていきたい。</p> <p>ライフラインすなわち「生命線」「生活線」を考察することで、今後のまちづくりのあり方を学ぶ。ライフラインとは、一人ひとりの生存権と発達権を保障する基盤である。その内容は、第1に、個人の生存権と発達権を保障する憲法と、その憲法を暮らしにいかす政治と行政経済、社会が求められる。第2に、生活や生産の共通の基盤ともいうもので、水・電気・ガス、エネルギー、交通・通信、情報の施設などハードな基盤である。第3に、生活を成り立たせている人間関係などのコミュニティや医療・福祉など社会基盤である。第4に、教育、研究、文化など知識情報基盤である。授業では、以上の問題が災害時に顕在化すること、それゆえ憲法が暮らしに根ざすまちづくりが必要なことを理解する。</p>						
到達目標	災害問題をひとり一人の生活と人生の問題であることを自覚し、少しでも被害を少なくし、復興をすみやかにする方法を考える。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のねらいと概要 2. 憲法と生命、暮らし 3. 憲法とひとり一人の個性と人権 4. 憲法とインフラストラクチャー 5. 憲法とライフライン 6. 水、電気、ガス、エネルギー、交通、通信、情報と生命、暮らし 7. 阪神・淡路大震災とライフライン 8. 阪神・淡路大震災と復興問題（1） 9. 阪神・淡路大震災と復興問題（2） 10. 東日本大震災とライフライン 11. 東日本大震災と復興問題（1） 12. 東日本大震災と復興問題（2） 13. 大震災とインフラストラクチャー 14. 生存権と発達権を保障するまちづくり（都市防災を中心に） 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	フィールドワークなどを実施する予定。						
授業方法	阪神・淡路大震災や東日本大震災など具体的事例をもとに学び合う雰囲気をつくる						
評価基準と評価方法	試験、正当な理由なき欠席は減点 平常点30点、小テスト試験70点						
教科書	最初の授業のときに指定する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムII（流通・マーケティング）						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	大ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。大手メーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、消費者の視点からマーケティングの具体的なケースを取り上げ、理論と組み合わせながらマーケティングの理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①基本的なマーケティングの用語を理解し、商品開発の説明できるようになる。 ②商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ③具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ④人とモノの仕組みが理解できる。						
授業計画	第1回 マーケティング志向の経営 第2回 マーケティングの基本的概念 第3回 製品開発のマネジメント 第4回 ブランド・マネジメント 第5回 ブランドの意味と意義—消費者の視点と企業の視点— 第6回 広告活動のマネジメント 第7回 統合型コミュニケーションのマネジメント 第8回 営業のマネジメント 第9回 マーケティング・チャネルのマネジメント 第10回 ロジスティックのマネジメント 第11回 取引と価格のマネジメント 第12回 競争の分析①（ゲストスピーカー） 第13回 競争の分析② 第14回 マーケティングリサーチ 第15回 マーケティングの企画と実践						
授業外における学習（準備学習の内容）	流行のものや話題のものを常に把握しておく。 新聞必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
教科書	「1からのマーケティング」、石井淳蔵+神戸マーケティングテキスト編集委員会著、碩学舎						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムIII（消費生活）						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	生活者の視点から考えたモノと消費の関係を捉え、消費者の責任と権利を理解していく						
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、生産された「モノ」に依存している。そして、近年極めて豊かで便利な「サービス」が受けられるようになった反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者・行政・企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。						
到達目標	①消費の面だけでなく、社会問題・環境問題から幅広くモノと消費の問題を捉えることができる ②消費問題を批判的に捉える事ができる ③消費者の権利と責任を実践していく仕組みを理解することができる						
授業計画	第1回 経済の発展と消費生活 第2回 消費生活の視点 - 社会の変化と消費生活 - 第3回 現代資本主義と消費生活 - 経済の動向と家庭生活 - 第4回 財・サービスの選択と意思決定 - 広告と企業活動 - 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者 第6回 生活情報の活用 第7回 金銭管理と消費者信用 第8回 契約と消費者 第9回 消費者の権利と責任 第10回 消費者問題 第11回 消費者の保護と関係法規 第12回 消費行動と環境保全（ゲストスピーカー） 第13回 環境問題の認識と解決 第14回 将来の消費社会と消費生活 - 新しい消費者像 - 第15回 消費生活 - 商品研究と事例研究 -						
授業外における学習（準備学習の内容）	常に新聞を見て情報を集めておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）などによる総合評価						
教科書	必要に応じてプリント配布						
参考書	随時、授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムⅣ（生活と経済）						
担当教員	池田 清						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会は、世界的な金融・財政危機と大不況ねそして東日本大震災の影響で、派遣社員のみならず正社員までもがリストラされ。年収200万円未満の非正規社員が多数輩出している。その多くが女性と若者であり、このような社会問題の本質を考える。						
授業の概要	現代の若者は、心を打ち明ける友や仲間がはず、ひとり孤独で悩んでいる人が多い。人と人とのつながりや絆がつくられる社会を展望する。						
到達目標	現代社会で、ひとり一人が自立するうえで障害となっている問題を考え、生活し自立することの意味を考える						
授業計画	第1回 授業のねらいと概要の説明 第2回 学生のアルバイトと学業 第3回 働く若者の現実 第4回 違法状態と労働法 第5回 使い捨ての労働 第6回 生きがいと格差 第7回 若者を取り巻く労働環境 第8回 深刻な若者の就労状況 第9回 若年雇用促進法の必要性 第10回 人間らしい生き方 第11回 スウェーデンモデルの検討（1） 第12回 スウェーデンモデルの検討（2） 第13回 女性の幸せと自立（1） 第14回 女性の幸せと自立（2） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	生活と経済に関する新聞やニュースに関心を持つ						
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用し具体的事例から学ぶ						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30%						
教科書	授業のときに指示する						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムV（生活と法）						
担当教員	榊 素寛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	受講生がこれから生きていく中で接することの想定されるいくつかの法制度や法律問題について講義を行う。						
授業の概要	受講生は世の中では一消費者であり、一労働者である。 受講生は、生活するうえで多くの法制度や法律問題に触れることになる。 本講義では、受講生が接することのある法制度・法律問題について、その仕組みやルールを理解できるように、講義を行う。						
到達目標	受講生が触れることの想定される基礎的な法制度・法律問題についての知識を修得する。						
授業計画	<p>計画は現時点での予定である。時事問題の回は順序・内容とも変更の可能性はある。また、学生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。</p> <p>第1回 法と学生の関わり 第2回 法と労働 (1) 就職に関する問題 第3回 法と労働 (2) 労働に関する問題 第4回 法と時事問題 (1) 経済問題 第5回 法と消費者取引 (1) 基本的な仕組み 第6回 法と消費者取引 (2) 生活上のトラブル 第7回 法と家族 (1) 総論 第8回 法と家族 (2) 婚姻について 第9回 法と時事問題 (2) 犯罪 第10回 法と家族 (3) 親子関係 第11回 法と家族 (4) 親の子に対する義務 第12回 法と家族 (5) 介護に関する問題 第13回 法と家族 (6) 相続に関する問題 第14回 法と時事問題 (3) 国際問題 第15回 法と時事問題 (4) 未定</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	指示された予習と授業後の復習を行うこと。 復習の際には、講義内容の復習にとどまらず、一歩進んで、法律問題を調べ、理解すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	学期中に1回、学期末に1回、合計2回のレポートを課す。1回につき50点の比率である。						
教科書	副田隆重ほか・ライフステージと法（有斐閣、第6版、2012年） ISBN978-4-641-12456-1						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	岸野 浩一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	<p>この授業では、コンピュータ（表計算ソフトウェア）を活用し、情報処理と統計の基礎を学びます。また、社会生活で必要とされるプレゼンテーションの技法についての演習も行います。現代社会には人口・売り上げ・株価など様々なデータがあり、私たちも実験やアンケート調査などを実施して、データを得ることができます。得られたデータがどのような意味をもっているのかを考えるためには、適切な情報の処理と分析の方法を理解しなければなりません。データの処理と分析の方法を身につけるために、この授業を通して、表計算ソフトウェアを活用するスキルと基本的な統計知識について学習します。そして、統計処理されたデータを分析し、考察した結果をプレゼンテーションとして発表する実習を行います。</p> <p>キーワード： データ分析、統計、プレゼンテーション、Excel、PowerPoint</p>						
到達目標	<p>以下の習得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェア（Excel）の操作技術 ・表計算ソフトウェアを用いたデータ分析の方法 ・統計の基礎知識（基本統計処理の技法と統計の読み方） ・プレゼンテーションソフトウェア（PowerPoint）の操作技術 ・データに基づくプレゼンテーションの基礎知識 						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（講義） 第2回 データ処理の基本（演習） - Excelの基本操作、計算式、関数と表計算、並べ替えなど 第3回 統計の読み方と調査方法（講義と演習） - 統計資料の読み方、アンケート調査（目的・対象・方法）の基礎知識 第4回 データの読み方と分析方法（講義と演習） - データの種類、尺度、質的データと量的データの違いなど 第5回 クロス集計の基本（講義と演習） - クロス集計とピボットテーブルについて 第6回 クロス集計の実践（演習） - ピボットテーブルとオートフィルタの活用 第7回 データ調査・集計のまとめと課題作成（演習） - 第6回までの授業内容のまとめ、総合課題への取り組み 第8回 データの抽出（講義と演習） - 条件による分岐・集計・抽出など 第9回 グラフによるデータ処理（講義と演習） - グラフの種類とその利用方法 第10回 データの分布（講義と演習） - 度数分布とヒストグラム、代表値（平均・最頻値・中央値）、標準偏差など 第11回 データ間の関係（講義と演習） - 散布図、相関係数、回帰分析など 第12回 データ分析・処理のまとめと課題作成（演習） - 第11回までの授業内容のまとめ、総合課題への取り組み 第13回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） - データに基づくプレゼンテーションの技法、課題の作成 第14回 プレゼンテーション課題の作成（演習） 第15回 プレゼンテーション課題の実演と講義の総括（演習）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題を出すことがありますので、次の授業開始時までに課題を提出するようにしてください。						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行います。						
評価基準と評価方法	表計算の課題および平常点（70%）＋プレゼンテーションの課題と実演（30%）を基本として、総合的に評価します。本科目は演習の授業であるため、毎回の出席と積極的な授業参加を求めます。そのため、特段の事情がある場合を除き、欠席した回数分を減点します。						
教科書	教科書は使用しません。レジュメなどを配布します。						

参考書	適宜、習熟度に応じて、授業中に紹介します。
-----	-----------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	岸野 浩一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	<p>この授業では、コンピュータ（表計算ソフトウェア）を活用し、情報処理と統計の基礎を学びます。また、社会生活で必要とされるプレゼンテーションの技法についての演習も行います。現代社会には人口・売り上げ・株価など様々なデータがあり、私たちも実験やアンケート調査などを実施して、データを得ることができます。得られたデータがどのような意味をもっているのかを考えるためには、適切な情報の処理と分析の方法を理解しなければなりません。データの処理と分析の方法を身につけるために、この授業を通して、表計算ソフトウェアを活用するスキルと基本的な統計知識について学習します。そして、統計処理されたデータを分析し、考察した結果をプレゼンテーションとして発表する実習を行います。</p> <p>キーワード： データ分析、統計、プレゼンテーション、Excel、PowerPoint</p>						
到達目標	<p>以下の習得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェア（Excel）の操作技術 ・表計算ソフトウェアを用いたデータ分析の方法 ・統計の基礎知識（基本統計処理の技法と統計の読み方） ・プレゼンテーションソフトウェア（PowerPoint）の操作技術 ・データに基づくプレゼンテーションの基礎知識 						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（講義）</p> <p>第2回 データ処理の基本（演習） - Excelの基本操作、計算式、関数と表計算、並べ替えなど</p> <p>第3回 統計の読み方と調査方法（講義と演習） - 統計資料の読み方、アンケート調査（目的・対象・方法）の基礎知識</p> <p>第4回 データの読み方と分析方法（講義と演習） - データの種類、尺度、質的データと量的データの違いなど</p> <p>第5回 クロス集計の基本（講義と演習） - クロス集計とピボットテーブルについて</p> <p>第6回 クロス集計の実践（演習） - ピボットテーブルとオートフィルタの活用</p> <p>第7回 データ調査・集計のまとめと課題作成（演習） - 第6回までの授業内容のまとめ、総合課題への取り組み</p> <p>第8回 データの抽出（講義と演習） - 条件による分岐・集計・抽出など</p> <p>第9回 グラフによるデータ処理（講義と演習） - グラフの種類とその利用方法</p> <p>第10回 データの分布（講義と演習） - 度数分布とヒストグラム、代表値（平均・最頻値・中央値）、標準偏差など</p> <p>第11回 データ間の関係（講義と演習） - 散布図、相関係数、回帰分析など</p> <p>第12回 データ分析・処理のまとめと課題作成（演習） - 第11回までの授業内容のまとめ、総合課題への取り組み</p> <p>第13回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） - データに基づくプレゼンテーションの技法、課題の作成</p> <p>第14回 プレゼンテーション課題の作成（演習）</p> <p>第15回 プレゼンテーション課題の実演と講義の総括（演習）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題を出すことがありますので、次の授業開始時までに課題を提出するようにしてください。						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行います。						
評価基準と評価方法	表計算の課題および平常点（70%）＋プレゼンテーションの課題と実演（30%）を基本として、総合的に評価します。本科目は演習の授業であるため、毎回の出席と積極的な授業参加を求めます。そのため、特段の事情がある場合を除き、欠席した回数分を減点します。						
教科書	教科書は使用しません。レジュメなどを配布します。						

参考書	適宜、習熟度に応じて、授業中に紹介します。
-----	-----------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	酒井 健						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活に必要な統計データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学						
授業の概要	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
到達目標	実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を習得する。						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準 個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム 度数分布表の作成 第3回 代表値 平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度 分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化 データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数 散布図・相関係数・順位相関 第7回 データの視覚的表現 ヒストグラム・累積度多角形 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布 母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順 仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定 母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定 独立性の検定 第12回 相関係数の検定 相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定 2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ1 第15回 授業のまとめ2						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習及び復習。特に復習は宿題（提出課題）として成績評価の一部とする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20%、小テスト20%、期末テスト60%						
教科書	なし。レジュメを配布する。						
参考書	『マンガでわかる統計学』 高橋信 オーム社 ISBN:978-4-2740-6570-5 『Excel ビジネス統計分析』 末吉正成・末吉美喜 翔泳社 ISBN:978-4-7981-1958-8 『はじめての統計学』 鳥居泰彦 日本経済新聞社 ISBN:978-4-5321-3074-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	酒井 健						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活に必要な統計データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学						
授業の概要	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
到達目標	実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を習得する。						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準 個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム 度数分布表の作成 第3回 代表値 平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度 分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化 データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数 散布図・相関係数・順位相関 第7回 データの視覚的表現 ヒストグラム・累積度多角形 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布 母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順 仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定 母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定 独立性の検定 第12回 相関係数の検定 相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定 2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ1 第15回 授業のまとめ2						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習及び復習。特に復習は宿題（提出課題）として成績評価の一部とする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20%、小テスト20%、期末テスト60%						
教科書	なし。レジュメを配布する。						
参考書	『マンガでわかる統計学』 高橋信 オーム社 ISBN:978-4-2740-6570-5 『Excel ビジネス統計分析』 末吉正成・末吉美喜 翔泳社 ISBN:978-4-7981-1958-8 『はじめての統計学』 鳥居泰彦 日本経済新聞社 ISBN:978-4-5321-3074-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活と仕事						
担当教員	中原 朝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ワーク・ライフ・バランスを軸としたキャリアプランを考える。						
授業の概要	私たちが充実した生き方を実践するためには、主体的にキャリアプランを設計できることが求められます。そのためには、女性の仕事と生活を多方面から理解することが必要です。本授業では、女性の働き方の歴史的变化、現在の仕事と生活の実態、働くことに直接影響をおよぼす労働法をはじめ男女共同参画社会基本法、企業がおこなっているワーク・ライフ・バランス施策への理解を深めます。その上で、自分のキャリアプランを設計します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性労働の歴史的变化および現状を理解できる 2. 労働法、男女共同参画社会基本法、ワーク・ライフ・バランスに関する施策を理解できる。 3. 1および2を踏まえて、自分のキャリアプランを設計できる。 						
授業計画	第1回 キャリアとは 第2回 女性の仕事と歴史的变化（明治から昭和まで） 第3回 女性の仕事と歴史的变化（昭和から現代まで） 第4回 女性の働き方 ライフイベントとの関連 第5回 女性の働き方 家事労働との関連 第6回 労働法 第7回 男女共同参画社会基本法 第8回 女性労働に関する法律 第9回 企業におけるワーク・ライフ・バランス施策 第10回 大学におけるワーク・ライフ・バランス施策 第11回 グループディスカッション キャリアプラン 大企業編 第12回 グループディスカッション キャリアプラン 中傷企業編 第13回 キャリアプラン 発表 第14回 キャリアプラン 発表 第15回 試験 質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から仕事に関するニュースを新聞等でチェックするように心がける。						
授業方法	講義およびディスカッション						
評価基準と評価方法	出席・授業への参加度20%、課題提出20%、試験60%						
教科書							
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎I						
担当教員	稲垣 明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活の中の化学						
授業の概要	私たちは、衣食住すべての分野で、様々な物質を用いている。それらの物質の成分は何か、どのような性質を持つかということに無理解では、物質を適切に合理的に用いることはできない。物質への理解を深める学問は化学である。この授業では、生活に関わりのある物質への理解を深めるため、化学の基礎を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物質の基本的な構造や性質を原子・分子のレベルで説明できる。 様々な化学反応を原子・分子のレベルで説明できる。 物質の性質や反応を理解し、日常生活や社会における利用や役割を考える態度を身につける。 						
授業計画	第1回 物質の成り立ち 原子の構造 第2回 化学結合と物質の性質 第3回 化学変化と化学反応式 第4回 いろいろな化学変化 第5回 反応熱 反応の速さ 第6回 物質の三態 溶液 第7回 酸と塩基 pH 第8回 コロイド溶液 第9回 有機化合物の特徴 炭化水素 第10回 炭化水素の構造 第11回 アルコール カルボン酸 第12回 糖 第13回 油脂とセッケン 第14回 アミノ酸とタンパク質 第15回 高分子化合物						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：最低限、前時に学んだことを思い起こしておくこと。 授業後学習：授業外にする課題がだされた場合は、必ず次の授業が始まるまでにしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60%程度、平常点（受講態度、提出物等）40%程度とし、総合的に評価する。科目の性格として知識の習得を重視する。つまり試験で一定の点数をとることが重要である。授業とは別に期末試験を行う。						
教科書	数研出版編集部編『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』 ISBN 978-4-410-27384 C7037						
参考書	松岡雅忠著『まるわかり！基礎科学』南山堂 ISBN978-4-525-05421-2 上記の教科書は本来は資料集なので、まとまった記述はない。そうしたものが必要と感じるようなら、この本を薦める。 立屋敷 哲著『ゼロからはじめる化学』丸善 ISBN978-4-621-08016-0 化学を自学自習することを考えて書かれている。前提として化学についての基礎知識は必要だし、読むには体力もいる。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎I						
担当教員	柴田 亜樹						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活の中の化学						
授業の概要	私たちの生活は、衣食住すべての分野で様々な物質に囲まれている。身の回りの現象や、身近な物質（製品や食品）を再認識し、物質への理解を深める。またこの講義では、生活にかかわりのある物質を中心に身近な化学の基礎を学習する事を目的とする						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質の基本的な構造を説明できる 2. 化学反応の量的関係や様々な化学反応を説明できる 3. 物質の性質や反応を理解し、日常生活や社会における利用や役割を考える事ができる 						
授業計画	<p>第1回 化学の世界 化学とは何か 化学のルール</p> <p>第2回 原子の構造 原子とは何か</p> <p>第3回 化学結合 イオン結合 共有結合 金属結合</p> <p>第4回 原子量と物質質量 原子量 分子量 物質質量</p> <p>第5回 化学反応の量的関係 化学反応式 溶液の濃度</p> <p>第6回 酸と塩基 酸、塩基とは 水素イオン濃度とpH</p> <p>第7回 酸化還元反応 酸化と還元</p> <p>第8回 まとめと前半試験</p> <p>第9回 有機化合物（1） 有機化合物とは何か 炭化水素</p> <p>第10回 有機化合物（2） 脂肪族化合物（アルコール カルボン酸）</p> <p>第11回 芳香族化合物 芳香族化合物とは何か アルコールとフェノール</p> <p>第12回 アミノ酸と糖類（1） アミノ酸とタンパク質</p> <p>第13回 アミノ酸・糖類（2） 糖類の種類</p> <p>第14回 無機化合物 硫黄とその化合物（酸性雨）</p> <p>第15回 まとめと後半試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業計画に従って予習しておくこと						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業態度（10%）、試験2回（90%）の総合評価						
教科書	「まるわかり基礎化学」 松岡雅忠著 南江堂						
参考書	「食を中心とした化学（第3版）」北原重登著 東京数学社						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎II						
担当教員	柳田 潤一郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活の科学基礎として、いろいろな生物を科学的に理解する。						
授業の概要	自然科学的な知識を増やすために、動植物をはじめ微生物等をその細胞の構造や機能、代謝あるいは免疫など生物学的な観点から学ぶ。						
到達目標	生物学的な知識を増やし、人間をヒトとして科学的に理解することをめざす。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 今、話題のサイエンス 第3回 生物の分類 第4回 細胞とは 第5回 植物細胞と動物細胞 第6回 細菌（バクテリア）とウイルス 第7回 遺伝、DNAとRNA 第8回 エネルギーと代謝 第9回 タンパク質、酵素 第10回 体液と恒常性 第11回 感染症 第12回 免疫 第13回 栄養 第14回 生態系 第15回 質疑応答、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付資料を十分に読む。 雑誌や新聞等で生活科学関連記事を探す。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	筆記試験：60点 数回のレポート：40点						
教科書	基礎固め 生物学、松村瑛子・安田正秀 著、化学同人						
参考書	講義中に適宜紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	青谷 実知代						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	今までに学んだ生活・消費に関する専門的知識から、主に企業のマーケティングや消費の仕方、ブランド展開等モノと人とのかかわりや仕組みについて取り上げ、自ら論文を作成することができる。						
授業の概要	具体的には、それぞれの設定した問題ごとに、先行研究の検索、先行研究の紹介、課題の設定、調査による課題への取り組み、データ処理、プレゼンテーションなどを行いながら、卒業論文の作成を行う。この授業を通じて、自分自身で何かを解明していくことに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。企業のマーケティング・マネジメントやブランド戦略、流通のしくみ、消費者のブランドイメージ、消費行動といった分野でテーマを見つけ（問題意識をもつこと）、自ら主体的に問題設定を行い、解決する糸口が見つけられるように取り組むことを目的とする。何事にも好奇心旺盛に取り組み、色々な事柄のなかから卒業研究のテーマが決まれば、その後卒業論文としての構成をどのように立てるのか具体的に考えていく。先行研究の検索、問題意識の明確化、テーマ設定の決定、調査方法論の決定、調査実施、データのまとめ、プレゼンテーションという流れを通して、卒業論文の完成を目指す。この過程では、主体性も大事であるが、協調性も大切になる。						
到達目標	①日頃から関心のあるテーマを自分で見つけることができる ②問題点を見つけ出し調査を進める中で、独自の結果を導くことができる。 ③課題を批判的に捉え、論文を作成することができる。						
授業計画	第1回. 卒業研究とは何か。研究課題の探し方 第2回. 関心のある分野の領域 第3回. テーマ設定（原則） 第4回. 研究計画の立て方（論文構成と章構成） 第5回. 資料探しと文献検索の方法① 第6回. 資料探しと文献検索の方法② 第7回. 論文の書き方 第8回. 研究計画の発表① 第9回. 研究計画の発表② 第10回. 研究計画の発表③ 第11回. 研究計画の発表④ 第12回. テーマ決定後の進め方 第13回. 情報収集と先行研究のまとめ 第14回. 中間発表① 第15回. 中間発表② 第16回. 調査方法論の中間発表①（アンケート調査） 第17回. 調査方法論の中間発表②（インタビュー調査） 第18回. 調査方法論の中間発表③（フィールド調査） 第19回. 調査方法論の中間発表④（歴史資料調査） 第20回. 文献収集・先行研究批判 第21回. 文献収集とノート作り 第22回. 論文執筆（章立ての確認） 第23回. 引用文献、参考文献、図表などの資料添付の方法 第24回. 研究論文の発表① 第25回. 研究論文の発表② 第26回. 研究論文の発表③ 第27回. 研究結果と考察① 第28回. 研究結果と考察② 第29回. 卒論発表の仕方 第30回. 最終チェックとプレゼンテーションの準備						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のあることを深く知るために、様々な情報を常に探しておきましょう。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションや発表準備（20%）、論文作成過程における中間評価（20%）、卒業論文の内容（60%）など総合的に評価する。						
教科書	なし。（必要に応じて資料を配布する）						

参考書	各自のテーマに併せて、参考文献を紹介する
-----	----------------------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	池田 清						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	大学4年間の集大成として卒論を位置づける						
授業の概要	自分が関心や興味をもつテーマを自由に選択し、議論を通じゼミ生がお互いに学び合う						
到達目標	文献検索や情報の収集、論理的思考力、問題発見能力を高める						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒論研究のねらいと概要について説明する 2. 学生の興味や関心について話し合う 3. 情報収集、文献検索の方法 4. 図書館利用の仕方 5. 論文の書き方 6. 先行研究の紹介 7. 卒業研究の内容と進め方（1） 8. 卒業研究の内容と進め方（2） 9. 情報や文献などの収集 10. 情報や文献などの収集 11. 情報や文献などの収集 12. 情報や文献などの収集 13. 情報や文献などの収集 14. 情報や文献などの収集 15. 情報や文献などの収集 16. 卒論の発表の仕方 17. 卒論の発表の仕方 18. 卒論の発表の仕方 19. 卒論の発表の仕方 20. 卒論の発表の仕方 21. 論文作成 22. 論文作成 23. 論文作成 24. 論文作成 25. 論文作成 26. 論文作成 27. 論文作成 28. 論文作成 29. ゼミでの発表 30. ゼミでの発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど卒論研究に関する問題に関心を持つ						
授業方法	演習 学生の興味、関心を尊重しつつ問題の核心をつく指導を行う						
評価基準と評価方法	論文審査						
教科書							
参考書	授業のなかで紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	打田 素之						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	現代社会の分析						
授業の概要	各自の関心に応じて、現代日本の現象（メディア、サブカルチャー、ビジネス、政治、時事問題など）を取り上げ、データ処理、先行研究の検索、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。 授業では仮説を設定し、その実証として卒業論文を作成する。						
到達目標	時代を特徴づける出来事を自らの力で発見し、それを常識にとらわれずに、独自の視点から分析する能力の獲得を目指す。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画の説明、卒論の書き方の指導、文献の探し方 2. 「はじめに」 テーマと研究計画の検討（1） 3. テーマと研究計画の検討（2） 5. 「序論」 先行研究の紹介 1 6. 先行研究の紹介 2 7. 先行研究の紹介 3 8. 先行研究の紹介 4 9. 「序論」 予備日・・・序論が不備であった者が再発表をする。ない場合は、個人指導。 10. 「第1章」 対象事例報告 1 11. 対象事例報告 2 12. 対象事例報告 3 13. 対象事例報告 4 14. 「第1章」 予備日・・・「第1章」が不備であった者が再発表するない場合は、個人指導。 15. 前期のまとめ <p style="text-align: center;">夏休みの課題： 卒論全体の構想（＝シナリオ）を作る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 卒論全体のシナリオの検討（1） 17. 卒論全体のシナリオの検討（2） 18. 「第2章」 本論研究発表 1 19. 本論研究発表 2 20. 本論研究発表 3 21. 本論研究発表 4 22. 「第2章」 予備日（1）・・・「第2章」の内容が足りなかった者の再発表日。 21. 「第2章」 予備日（2）・・・「第2章」の内容が足りなかった者の再発表日。ない場合は個人指導。 22. 「結論」 研究発表 1 23. 研究発表 2 24. 研究発表 3 25. 研究発表 4 26. 「結論」 予備日（1）・・・「結論」の内容が不備であった者の再発表日。 27. 「結論」 予備日（2）・・・「結論」の内容が不備であった者の再発表日。ない場合は、個人指導。 28. レジメの指導 29. 口頭試問 1 30. 口頭試問 2 						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎日、新聞を読み、ニュース番組を見ること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表（25%）、平常点（25%）、卒業論文の内容（50%）						
教科書	なし						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	竹田 美知						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	1年から3年で学んだ都市生活に関する専門知識に立った上で、主に家族の関係や生活経営上の問題について、自ら問題を設定して取り組む。						
授業の概要	それぞれの設定した問題ごとに、先行研究の検索、先行研究の紹介、課題の設定、仮説構成による課題への取り組み、データ処理、プレゼンテーションなどを行う。これらの手続きの最終段階として、卒業論文の作成を行う。						
到達目標	知識 自分の問題意識に基づいた先行研究を読み解き、批判的思考によって新たな研究視点に基づき論理的に考える力をつける。 能力 問題を解決するための方法を選択し、文献調査や社会調査によって問題を分析し解決方法を見つけ出すことができる。 態度 家族の生活問題を解決し、社会貢献に対して積極的になる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の関心と領域 2. テーマの設定 3. 研究計画発表 4. 卒論の構想について 5. 情報収集、文献検索の方法 6. 図書館利用のコツ 7. 公的資料の探し方 8. 論文の書き方 9. 引用文献の書き方・注の書き方 10. 専門用語の定義について 11. 文章の点検と推敲 12. テーマの関する先行研究の紹介・発表 13. 各自の中間発表Ⅰ（卒論の目次と資料調査のまとめ） 14. 各自の中間発表Ⅱ（卒論の目次と資料調査のまとめ） 15. 各自の中間発表Ⅲ（卒論の目次と資料調査のまとめ） 16. 研究方法についての確認（質問紙調査） 17. 研究方法についての確認（インタビュー調査） 18. 研究方法についての確認（ドキュメント調査） 19. 各自の研究Ⅰ・研究状況中間発表Ⅰ 20. 各自の研究Ⅱ・研究状況中間発表Ⅱ 21. 各自の研究Ⅲ・研究状況中間発表Ⅲ 22. 研究成果と卒論の構成 23. 研究成果と図表の作り方 24. 研究成果と考察・結論 25. 卒論発表の仕方 26. 口頭発表の仕方 27. ポスター発表の仕方 28. 概要の書き方 29. 卒論の最終チェック 30. ゼミ内発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分自身で設定したテーマの資料収集を授業外には行い、フィールドでは積極的に参与観察を行い調査をする。調査の設計、データの入力、データクリーニング、データ分析、発表の準備に関しては授業外に行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション（10%）、授業における貢献度（5%）、卒業論文作成過程における中間評価（5%）、卒業論文の内容（80%）						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	武智 多与理						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	これまでに学んだ「食」に関する専門知識に立ったうえで、「食」関連の課題に関するテーマを設定し、問題解決に取り組む。						
授業の概要	「食」関連の課題に関するテーマを自ら設定し、それについて分析・考察を行って、課題解決のための方法を見出し卒業論文としてまとめる。						
到達目標	自ら設定した課題について、その解決方法を見出し、最終的に、社会へ発信していけるような内容にまとめることを目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 テーマの設定説明 第3回-第4回 個人別テーマの設定 第5回 中間発表会（テーマと研究計画） 第6回-第13回 個人別テーマ調査・実験・実習の実施 第14回-第15回 各自の中間発表 第16回-第28回 設定テーマの調査・実験・実習の実施、まとめ、卒業論文のまとめ 第29回-第30回 ゼミ内まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	先行研究等の文献調査、資料収集、フィールドワーク						
授業方法	講義、実習、実験						
評価基準と評価方法	研究への取り組み方、プレゼンテーション、卒業論文作成について評価する。						
教科書	適宜プリント等配布						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	心理学的研究に関する卒論の作成						
授業の概要	卒論に向けて、心理学の実験研究をおこなう。自ら心理学の課題を設定し、先行研究を探索、紹介し、課題を設定したのち、課題解決のための方法を計画、実施し、データをまとめ、考察し、プレゼンテーションし、卒業論文としてまとめる。						
到達目標	先行研究を発展させ、自ら心理学の実験・研究計画をたて、実行、まとめ、発表することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 実験・調査の準備 3. 実験・調査の準備 4. 実験・調査の準備 5. 実験・調査の準備 6. 第1回報告会 7. 実験・調査の実施 8. 実験・調査の実施 9. 実験・調査の実施 10. 実験・調査の実施 11. 実験・調査のまとめ 12. 実験・調査のまとめ 13. 実験・調査のまとめ 14. 第2回報告会 15. 第2回報告会 16. 実験・調査の準備 17. 実験・調査の準備 18. 実験・調査の準備 19. 実験・調査の準備 20. 実験・調査の実施 21. 実験・調査の実施 22. 第3回報告会 23. 実験・調査のまとめ 24. 実験・調査のまとめ 25. 実験・調査のまとめ 26. 実験・調査のまとめ 27. 実験・調査のまとめ 28. 実験・調査のまとめ 29. 第4回報告会 30. 第4回報告会、講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。 授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、次の実験や発表に生かす。						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	報告書や卒論(80%)、参加の取り組み(20%)						
教科書							
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	花田 美和子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	衣生活に関連するテーマを取り上げ、卒業論文を作成する。						
授業の概要	前期はテーマを設定し、先行研究の調査、予備実験等をおこなった上で、研究計画を作成する。後期は定期的に進捗を確認しながら本実験、調査を進め、12月中に原稿を作成、提出締切日までに卒業論文を完成させる。						
到達目標	各自のテーマに沿って研究を行ない、知見を得る。 論理的に文章を組み立て、一定水準の卒業論文を完成させる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：先行研究の紹介 1 第3回：先行研究の紹介 2 第4回：先行研究の紹介 3 第5回：テーマの設定と研究計画の検討 1 第6回：テーマの設定と研究計画の検討 2 第7回：テーマの設定と研究計画の検討 3 第8回：予備実験 1 第9回：予備実験 2 第10回：予備実験 3 第11回：研究テーマと研究計画の発表 1 第12回：研究テーマと研究計画の発表 2 第13回：研究テーマと研究計画の発表 3 第14回：研究の実践 第15回：研究の実践 第16回：中間発表 第17回：研究の実践 第18回：研究の実践 第19回：研究の実践 第20回：研究進捗状況の確認 第21回：研究の実践 第22回：研究の実践 第23回：研究の実践 第24回：研究進捗状況の確認 第25回：卒業論文執筆の方法 第26回：研究進捗状況の確認 第27回：論文の完成 第28回：論文要旨作成 第29回：研究発表準備 第30回：研究発表準備						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間外にも研究を進めていくことが必要となる。						
授業方法	演習、実験						
評価基準と評価方法	研究への取り組み（50%） 卒業論文（50%）						
教科書	使用しない。						

参考書	随時紹介する。
-----	---------

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを用いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、類似相関を理解しながらデータに慣れ、分析手法を身につけていく。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の集計・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータのの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定 10. 2つの母平均の差の検定（SPSSによる統計分析） 11. 対応のある2つの母平均の差の検定 12. 対応のない2つの母平均の差の検定 13. 一元配置の分散分析と多重比較① 14. 一元配置の分散分析と多重比較② 15. まとめと期末試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題（10%）、レポート（10%）、小テスト（20%）、期末テスト（60%）						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを用いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、類似相関を理解しながらデータに慣れ、分析手法を身につけていく。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の集計・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータのの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定 10. 2つの母平均の差の検定（SPSSによる統計分析） 11. 対応のある2つの母平均の差の検定 12. 対応のない2つの母平均の差の検定 13. 一元配置の分散分析と多重比較① 14. 一元配置の分散分析と多重比較② 15. まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題（10%）、レポート（10%）、小テスト（20%）、期末テスト（60%）						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	青谷 実知代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを用いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、類似相関を理解しながらデータに慣れ、分析手法を身につけていく。						
到達目標	①データの裏側を読み解くことができる。 ②データを作成する手法が身につく。 ③データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。						
授業計画	1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の集計・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータのの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定 10. 2つの母平均の差の検定（SPSSによる統計分析） 11. 対応のある2つの母平均の差の検定 12. 対応のない2つの母平均の差の検定 13. 一元配置の分散分析と多重比較① 14. 一元配置の分散分析と多重比較② 15. まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習・復習を必ずすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業毎のチャレンジ問題（10%）、レポート（10%）、小テスト（20%）、期末テスト（60%）						
教科書	なし（授業中に資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理学						
担当教員	片平 理子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食事作りの基本の理解						
授業の概要	栄養素を含む食材を、安全で消化吸収しやすく、おいしい食物の形に変える過程を調理という。食物を組み合わせ、配膳により食卓を整えるが、食事は必要な栄養を充足させるだけでなく、心理的な満足にもつながるものでなくてはならない。調理学では調理の意義や役割を理解し、実践に結びつけるための科学的理論を学ぶ。すなわち、食べ物のおいしさとは何かを知り、食事設計の基本知識、食材の調理特性、調味・加熱等の調理操作法、調理器具、各食材の調理による栄養素・呈味成分・機能性成分・物性の変化について学ぶ。						
到達目標	4つの食事の役割と3つの調理の目的を説明する事ができる 代表的な食品の基本的性質と調理特性を科学的に説明する事ができる 個々の調理操作による食品に対する影響を科学的に説明する事ができる						
授業計画	1. 調理の目的 2. 食事計画論 3. 食べ物のおいしさ (1) 調理と嗜好性 4. 食べ物のおいしさ (2) 嗜好性の評価 5. 調理操作と調理機器 6. 植物性食品の調理科学 (1) 米と小麦 7. " (2) いも類・豆類・種実類 8. " (3) 野菜類・果実類・きのこ類 9. 動物性食品の調理科学 (1) 食肉類・魚介類 10. " (2) 卵類・牛乳、乳製品 11. 油脂類の調理科学 12. ゲル化剤・とろみ剤の調理科学 13. 調味料・香辛料の調理科学 14. 嗜好飲料の調理科学 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、授業前に教科書の該当する箇所を読んできてください。その際、わからない語句や理解できない箇所をチェックし、自分で調べられる範囲で調べた上で授業に出席しましょう。 また、6週目以降、授業内容に関する自宅実習課題が出されますので、所定の様式でレポートにまとめて授業時間に提出してください。 授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度簡単に整理し、理解しましょう。復習のために教科書を読み直し、授業内に理解できなかったことを抽出し、次の授業で質問して問題点を早めに解決することが大切です。自分が何を理解できていて、何が理解できていないのか、毎授業後に確認する習慣をつけましょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート20%、期末テスト50%						
教科書	調理学（おいしく安全に調理を行うための科学の基礎） 久木久美子・新田陽子・喜多野宣子 著 化学同人 ISBN 978-4-7598-1450-7						
参考書	1. 「新ビジュアル食品成分表 新訂版」大修館書店 ISBN 978-4-469-27002-0 2. NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ・洪川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1396-5						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	片平 理子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	実践による食事作りの理解						
授業の概要	<p>日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技術を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。実習はグループで行うが基礎技術は各自が習得する。</p>						
到達目標	<p>基本的な調理操作（非加熱操作、加熱操作、調味操作、盛り付け）ができるようになる。 実習で扱った食品の特徴を挙げることができるようになる。 実習で扱った食品の特徴と、調理操作や技術を関連づけて列挙できるようになる。 実習した献立をもとに献立を作成し、調理操作の流れ図（手順）を設計できるようになる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 包丁の使い方（野菜の切り方）・炒め方 2. 白飯（p37）・味噌汁（p42）・キャベツ炒め（鮭缶） 3. 白飯（冷凍）・すまし汁（p37）・白身魚のおろし煮（p38）・こかぶ即席漬け（p51） 4. かやくごはん（p46）・むらくも汁（p54）・秋刀魚の塩焼き（p41）・きんぴらごぼう（p187） 5. かやくごはん（冷凍）・わかめスープ（p171）・肉じゃが（p45）・ほうれん草お浸し（p39）・フルーツ大福（p43） 6. ロールパン・コーンクリームスープ（p94）・ハンバーグ（p93）・にんじんのグラッセ（p93）、サヤインゲンのソテー・ブラマンジェ（p103） 7. マカロニグラタン（p89）・カスタードプディング（p87）・コールスローサラダ（p102） 8. ロールパン・ビーフシチュー（p113）・シーザーサラダ（p114）・マンゴープリン（p147） 9. 白飯・さつま汁（p167）・だし巻き卵（p41）・かぼちゃの含め煮（p51） 10. 白飯（冷凍）・茶碗蒸し（p62）・天ぷら（p61）・きゅうりの酢物（p43） 11. クリスマス料理：鶏肉カツレツ（p118）・織切野菜のスープ（p183）・スポンジケーキ（p123） 12. 正月料理：雑煮・水引なます・りんごきんとん・田作り・松風羽子板・黒豆甘露煮・色紙数の子・紅白蒲鉾・アスパラマ 13. ヨネーズ（門松）（p73-77） 14. 兵庫の郷土料理から学ぶ（1）資料調査結果の発表会、兵庫在住の先生による講演 15. 〃（2）実習と試食会 16. まとめと実習試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：1回目の授業で指示する様式で、授業計画に従って実習内容を予めレポート用紙にまとめて下さい。 授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度確認しながら、レポート課題に取り組み、レポートを完成させてください。授業で行う実習とは別に、自宅で行う実習課題やその他の課題が出されますので、所定の様式で期日までに提出して下さい。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポート35%、テスト15%						
教科書	<p>あすの健康と調理 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-887492-222-4 C3077</p>						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	武智 多与理						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	実践による食事作りの理解						
授業の概要	<p>日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。</p> <p>実習はグループで行うが基礎技術は各自が習得する。</p>						
到達目標	<p>基本的な調理操作（非加熱操作、加熱操作、調味操作、盛り付け）ができるようになる。</p> <p>実習で扱った食品の特徴を挙げることができるようになる。</p> <p>実習で扱った食品の特徴と、調理操作や技術を関連づけて列挙できるようになる。</p> <p>実習した献立をもとに献立を作成し、調理操作の流れ図（手順）を設計できるようになる。</p>						
授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 包丁の使い方（野菜の切り方）・炒め方 2. 白飯（p37）・味噌汁（p42）・キャベツ炒め（鮭缶） 3. 白飯（冷凍）・すまし汁（p37）・白身魚のおろし煮（p38）・こかぶ即席漬け（p51） 4. かやくごはん（p46）・むらくも汁（p54）・秋刀魚の塩焼き（p41）・きんぴらごぼう（p187） 5. かやくごはん（冷凍）・わかめスープ（p171）・肉じゃが（p45）・ほうれん草お浸し（p39）・フルーツ大福（p43） 6. ロールパン・コーンクリームスープ（p94）・ハンバーグ（p93）・にんじんのゲラッセ（p93）、サヤインゲンのソテー・ブラマンジェ（p103） 7. マカロニグラタン（p89）・カスタードプディング（p87）・コールスローサラダ（p102） 8. ロールパン・ビーフシチュー（p113）・シーザーサラダ（p114）・マンゴープリン（p147） 9. 白飯・さつまい（p167）・だし巻き卵（p41）・かぼちゃの含め煮（p51） 10. 白飯（冷凍）・茶碗蒸し（p62）・天ぷら（p61）・きゅうりの酢の物（p43） 11. クリスマス料理：鶏肉カツレツ（p118）・織切野菜のスープ（p183）・スポンジケーキ（p123） 12. 正月料理：雑煮・水引なます・りんごきんとん・田作り・松風羽子板・黒豆甘露煮・色紙数の子・紅白蒲鉾・アスパラマヨネーズ（門松）（p73-77） 13. 兵庫の郷土料理から学ぶ（1）資料調査結果の発表会、兵庫在住の先生による講演 14. "（2）実習と試食会 15. まとめと実習試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：1回目の授業で指示する様式で、授業計画に従って実習内容を予めレポート用紙にまとめて下さい。</p> <p>授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度確認しながら、レポート課題に取り組み、レポートを完成させてください。授業で行う実習とは別に、自宅で行う実習課題やその他の課題が出されますので、所定の様式で期日までに提出して下さい。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	受講状況50%、レポート35%、テスト15%						
教科書	<p>あすの健康と調理 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-887492-22-4 C3077</p>						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法I						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	多変量解析の基礎的な理論と分析手順を学び、繰り返し学習することで、分析手法を身につけデータを読み解いていく。						
授業の概要	質問紙調査で得られたデータなどの分析によく利用される多変量解析法について、基礎的な考え方と各種分析法とその分析手順について学習する。特に、重回帰分析と因子分析について詳しくとりあげ、データを読み解く力をつけていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①質問紙から得られたデータを、適切な手法で分析することができる ②今までのデータ知識とは違う読み取り方ができる ③得られたデータから現状を理解し、問題点を捉える事が出来る 						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 多変量解析とは 2. 多変量解析を要約する 3. データセットの作成方法 4. 記述統計の算出方法 5. 分散分析とは 6. 分散分析の適用方法 7. 分散分析の実践 8. 重回帰分析とは 9. 重回帰分析の適用方法 10. 重回帰分析の問題点 11. 重回帰分析の実践 12. 因子分析とは 13. 因子分析の適用方法 14. 因子分析の実践 15. 分析のまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	統計ソフトを使い慣れるように練習すること。						
授業方法	講義・実習						
評価基準と評価方法	小テスト（40%）、レポート（20%）、期末試験（40%）によって総合的に判断する						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	岩井紀子・保田時男著「調査データ分析の基礎」有斐閣 その他、随時紹介						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法II						
担当教員	佐々木 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	質的調査の一連のプロセス（研究テーマ・調査課題の設定、データの収集・整理・分析、報告書の作成）を経験することを通じて、質的研究について学ぶ。						
授業の概要	質的研究を行うための基礎的な事柄について学習する。とくにインタビュー調査について、データの収集・整理・分析のための練習を行い、最終的には、各自でデータを収集・整理・分析したレポートを作成する（ただし、受講者数によっては、多少内容を変更する可能性がある）。						
到達目標	質的データの収集・整理・分析および結果の公表に必要な基礎的な力を身につけ、実際に質的調査（インタビュー調査）を企画・実施することができるようになる。						
授業計画	第1回 社会調査とは 第2回 質的研究概論 第3回 関連する研究の検討 第4回 質的研究の問い 第5回 調査企画の具体化 第6回 インタビュー調査の理論と方法 第7回 データの公表と調査倫理 第8回 データ収集・整理・分析の練習（1）文章を書く時の注意 第9回 データ収集・整理・分析の練習（2）説明の工夫 第10回 データ収集・整理・分析の練習（3）インタビュー実践 第11回 データ収集・整理・分析の練習（4）記録とデータ作成 第12回 データ収集・整理・分析の練習（5）分析 第13回 報告書作成作業（1）文章校正とは 第14回 報告書作成作業（2）レポート修正作業 第15回 報告書作成作業（3）報告書作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内で紹介する文献を読み、自身の調査企画・レポートの参考にすること。						
授業方法	講義、実習						
評価基準と評価方法	授業への参加状況、授業中の課題、最終レポートによって総合的に評価する。（平常点・授業内課題30%、レポート提出30%、レポート評価40%）						
教科書	なし（授業中に適宜資料を配付する）						
参考書	藤井誠二，2009『大学生からの「取材学」-他人とつながるコミュニケーション力の育て方』講談社 9784062725781 谷富夫・芦田徹郎編，2009『よくわかる質的調査 技法編』ミネルヴァ書房 9784623052738 谷富夫・山本努編，2010『よくわかる質的調査 プロセス編』ミネルヴァ書房 9784623058440 ほか、随時紹介						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習Ⅰ						
担当教員	武智 多与理						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	生活科学（食）分野の研究方法の基礎を学ぶ。						
授業の概要	4年次に食分野で卒業研究を行うために必要な食に関する幅広い知識の修得、実験計画の立て方、データの統計的処理方法などの修得を目指すものである。合わせて、興味ある分野（食に関する私たちを取り巻く環境と課題）について過去の研究レポートなどを調査する。調査する文献は論文の目的や方法を理解したうえで、結果をみて自分自身で考えたことと著者の考察と比べてみる。相違があれば、なぜなのかを考える。						
到達目標	4年次に行う卒業研究のテーマを設定するために、興味のある分野についてテーマを絞る。そのテーマについて過去の研究レポートや文献などを調査し、自分の考えと著者の考察を比較し、分析・考察を繰り返すことで、卒業研究のテーマ設定・取り組み方を見つげられるようにする。						
授業計画	<p>通年の授業として卒業研究に必要なとされる知識と実験技術を習得する（講義と実験）。</p> <p>第1回 概要説明 進め方について 第2回 概要説明 どんなテーマを扱うかについて、実験について説明 第3回 糖質の科学 糖質についての説明（化学的側面、社会的背景） 第4回 糖質の科学 糖質についての説明（定性実験など）説明 第5回 糖質の科学 糖質についての説明 第6回 地元伝統産業についての説明 第7回 地元伝統産業について調査 第8回 地元伝統産業について考察 第9回 発酵食品 発酵食品についての説明 第10回 発酵食品 発酵食品についての説明 第11回 発酵食品 発酵食品についての説明 第12回 発酵食品 発酵食品についての説明 第13回 地元伝統産業見学（学外授業） 第14回 地元伝統産業見学（学外授業） 第15回 まとめ</p> <p>第16回 だし汁に関する実験説明 第17回 だし汁の実験実施 第18回 アミラーゼによる消化力実験説明 第19回 アミラーゼによる消化力実験実施 第20回 食育について 食育基本法の説明、社会的背景など 第21回 食育について 問題点・課題分析、考察 第22回 酸化について 第23回 過酸化物質測定実験 第24回 酸化まとめ 文献、研究レポート 購読 第25回 文献、研究レポート 購読、課題提案、解決策提唱 第26回 文献、研究レポート 検索、資料収集 第27回 文献、研究レポート テーマ設定、個人別分析 第28回 テーマに関する個人別分析作業 第29回 討論 第30回 まとめ</p> <p>* 内容は変更になることがある</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：配布プリント（テキスト）の該当する箇所を読んでおく。 授業後：実験実習後のレポート提出を求める。文献調査。 学外授業有</p>						
授業方法	講義と実験						
評価基準と評価方法	課題（収集した資料について）に対する取り組み方、自ら行った考察などについて評価する。						
教科書	適宜プリントを配布。						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習II						
担当教員	花田 美和子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	現代社会における衣生活の問題点を科学的な手法で探究する。 テキスタイルの生産工程を体験する。						
授業の概要	前期：文献講読を通して衣生活に関連するさまざまな事例を学ぶ。各自がテーマに沿って調査資料を作成し、パワーポイントで発表し、ディスカッションする。 後期：羊毛の原毛からテキスタイルができるまでの工程を実習する。						
到達目標	情報や資料を収集し、分かりやすくまとめることができる。 効果的なプレゼンテーションとディスカッションができるようになる。 テキスタイルの生産工程を一通り実践する。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：文献購読1 第3回：文献購読2 第4回：文献購読3 第5回：文献購読4 第6回：パワーポイントによるプレゼンテーション演習の説明1 第7回：パワーポイントによるプレゼンテーション演習の説明2 第8回：プレゼンテーション資料の作成1 第9回：プレゼンテーション資料の作成2 第10回：プレゼンテーション資料の作成3 第11回：発表とディスカッション1 第12回：発表とディスカッション2 第13回：発表とディスカッション3 第14回：発表とディスカッション4 第15回：プレゼンテーションのまとめ 第16回：実験・実習の説明 第17回：原毛の観察と洗毛1 第18回：紡績および染色1 第19回：紡績および染色2 第20回：紡績および染色3 第21回：紡績および染色4 第22回：フェルトの試作1 第23回：フェルトの試作2 第24回：フェルトの試作3 第25回：フェルトの試作4 第26回：織物、編物の試作1 第27回：織物、編物の試作2 第28回：織物、編物の試作3 第29回：織物、編物の試作4 第30回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	被服学関連の授業内容を復習しながら受講すること。						
授業方法	演習、実験、実習						
評価基準と評価方法	発表、課題、授業への取り組みを総合的に評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習III						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	心理学の中級実験と文献講読						
授業の概要	心理学の中級実験をグループに分かれて実習形式でおこなう。興味のある日本語の文献を選び、レジュメにまとめ、発表し、全員で議論する。さらにグループに分かれ、講読した文献の先行研究を参考に、実験や調査を計画・実施し、データをまとめ、発表し、議論する。						
到達目標	先行研究を参考にして心理学の実験を計画、実行、まとめ、発表できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 文献購読の仕方 3. 文献購読 4. 文献購読 5. 文献購読 6. 文献購読 7. 実験・調査の計画 8. 実験・調査の計画 9. 実験・調査の準備 10. 実験・調査の実施 11. 実験・調査のまとめ 12. 実験・調査のまとめ 13. 発表 14. 発表 15. 発表 16. 文献購読 17. 文献購読 18. 文献購読 19. 文献購読 20. 文献購読 21. 実験・調査の計画 22. 実験・調査の計画 23. 実験・調査の準備 24. 実験・調査の実施 25. 実験・調査の実施 26. 実験・調査のまとめ 27. 実験・調査のまとめ 28. 発表 29. 発表 30. 発表と講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。 授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、次の実験や発表に生かす。						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(20%)、報告書(80%)						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習Ⅳ						
担当教員	竹田 美知						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。						
授業の概要	実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生にとって身近な生活のテーマである「女子大入学から卒業後のライフコース」に焦点をあてる。現在の女子大生だけを対象とするのではなく、神戸松蔭開学からの資料をもとに、明治から平成にいたるまでの女子大教育の変遷が、女子大生のライフコースがどのように影響を与えたかについても取り上げる。						
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 知識 量的調査および質的調査の技法を理解する。 能力 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質的調査とは何か 2. 質的調査のデータ収集 3. 質的調査と量的調査の関係 4. 質的調査、特に内容分析について再度確認する。 5. 図書館の利用方法 6. 図書館の資料収集 7. 明治から平成にいたる神戸松蔭の内容分析 8. 現在の女子大教育の内容、女子大の意義などの内容分析 9. 他の女子大の量的データ（アンケート調査）の分析Ⅰ 10. 他の女子大の量的データ（アンケート調査）の分析Ⅱ 11. 他の女子大の量的データ（アンケート調査）の分析Ⅲ 12. 第2次卒業生調査の2次分析 13. 第2次卒業生調査の2次分析 14. 卒業生インタビュー調査項目の作成 15. 卒業生インタビュー調査項目の作成 16. 卒業生インタビューの実施 17. 卒業生インタビューの実施 18. 卒業生インタビューの実施 19. トランスクリプトの作成 20. トランスクリプトの作成 21. トランスクリプトの分析 22. トランスクリプトの分析 23. 調査報告書の作成 1 24. 調査報告書の作成 2 25. 調査報告書の作成 3 26. 学生の報告書の発表 1 27. 学生の報告書の発表 2 28. 学生の報告書の発表 3 29. 30. それぞれの視点からのグループごとに報告書をまとめる。 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外学習：調査に関する資料を収集したり、インタビューに関しては学外で行う。またトランスクリプトの作成は授業外に作成し、報告書や発表の準備に関しても授業外に行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価						
教科書	プリントを配布						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習V						
担当教員	池田 清						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	衣・食・住や災害にかかわるまちづくりは、市民や企業、行政、そしてNPO、ボランティアが構成主体であるが、まちづくりの実践をフィールドワークし、これからの課題を発見する。						
授業の概要	衣・食・住や災害にかかわるまちづくりに関するフィールドワークや新聞、雑誌などから都市生活に関する問題を探し、それらを分析しそこで得られた知見を実際の生活に生かす。						
到達目標	この演習は、4年次に生活システム分野で卒業研究を行うために必要な知識と技法を修得することを目的とする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞や文献の理解 2. 新聞や文献の理解 3. 新聞や文献の理解 4. 新聞や文献の理解 5. 新聞や文献の理解 6. フィールドワーク 7. フィールドワーク 8. フィールドワーク 9. フィールドワーク 10. フィールドワーク 11. フィールドワーク 12. フィールドワーク 13. フィールドワーク 14. フィールドワーク 15. フィールドワーク 16. レポート作成と発表 17. レポート作成と発表 18. レポート作成と発表 19. レポート作成と発表 20. レポート作成と発表 21. レポート作成と発表 22. レポート作成と発表 23. レポート作成と発表 24. レポート作成と発表 25. レポート作成と発表 26. まとめとレポート提出 27. まとめとレポート提出 28. まとめとレポート提出 29. まとめとレポート提出 30. まとめとレポート提出 						
授業外における学習（準備学習の内容）	都市生活や災害に関する新聞やニュースなどに関心を持つ						
授業方法	全員が議論に参加しお互いが学び合う						

評価基準と 評価方法	レポート50%、発表と報告50%
教科書	授業で紹介する
参考書	

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習VI						
担当教員	青谷 実知代						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	商品開発を通して考えるブランド・マーケティングと消費者のイメージを捉える。 データをもとに現状を理解し、商品につなげる取り組みを行う。						
授業の概要	マーケティングにおける商品の企画・立案をするためには、調査は必要不可欠である。そのために、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書まで社会調査・市場調査の一連のプロセスを経験させ、理解することを目的とし、さらに企画書作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。 テーマは、地域ブランドについて取り上げる。例えば、神戸は山と海と坂道に囲まれた自然豊かな港町。洋菓子が発祥地であると共にファッション＝生活文化という基本的認識のあるハイカラでモダンな文化都市でもある。神戸で学び生活スタイルを築く女子大学生のブランドに抱くイメージに焦点をあて、消費行動へ与える影響についてファッションと食のカテゴリーからそれぞれ探っていく（2009年度実施内容）。2010年度は、他地域ブランドと関西ブランドの組み合わせから、新たなものを発見していくアイデアだしを中心に行った。このように、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を発見し、最終的にはマーケティング担当者や営業担当者などの実務家に、得られた結果をプレゼンテーションできるよう目指す。						
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、実践することができる ②マーケティングの方法論をどのように使っていくのかを理解することができる ③データを読み取り、商品につなげることができる						
授業計画	第1回. 演習で取り上げるテーマ発表 第2回. マーケティングを実践することの意義 第3回. 調査目的の明確化① 第4回. 調査目的の明確化② 第5回. 調査枠組みの検討① 第6回. 調査枠組みの検討② 第7回. 質的調査を行うための仮説設定 第8回. 量的調査を行うための仮説設定 第9回. 調査票の素案作りとその方法 第10回. 調査票の作成・完成とプレテスト 第11回. インタビュー調査実施（テーブルおこし） 第12回. アンケート調査の実施（学内・学外にて） 第13回. 調査収集とまとめ 第14回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第15回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第16回. アイデアだしの方法 第17回. グループディスカッション 第18回. 商品開発の企画・立案の方法① 第19回. 商品開発の企画・立案の方法② 第20回. 企画書の書き方 第21回. 本調査実施① 第22回. 本調査実施② 第23回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）① 第24回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）② 第25回. 中間プレゼンテーション① 第26回. 中間プレゼンテーション② 第27回. 企画書作成 第28回. プレゼン準備と最終確認 第29回. 最終プレゼン発表① 第30回. 最終プレゼン発表②						
授業外における学習（準備学習の内容）	人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に観察力をもとう!!						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	アイデア出しやグループディスカッション（40%）、レポート・プレゼン発表などによる総合評価（60%）						

教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書	随時紹介する（参考書リストは授業中に配布します）

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習VII						
担当教員	打田 素之						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	政治・経済・文化の三つの観点からの現代日本社会の分析						
授業の概要	現代社会の現象や時事問題を取り上げながら、プレゼンテーションと論理的な文章の作成方法を学ぶ。						
到達目標	現代日本で何が問題となっているかを説明できる。 自分の意見を客観的で論理的な文章にまとめることができる。						
授業計画	<p>1. 授業計画の提示</p> <p>以下の2～14と19～22の回では、現代日本を特徴づける社会現象を取り上げ討論形式の授業を行う。</p> <p>2. 政治・経済 テーマ 1 「消費増税の論理と日本の未来」 3. " 2 「TPPとは何か」 4. " 3 「シェールガス革命」 5. " 4 「ビッグデータは新ビジネスになるか」</p> <p>6. 社会 テーマ 1 「日本医療の課題」 7. " 2 「女性の輝く時代は来るのか」 8. " 3 「キャサリン妃と雅子妃はどこが違うか」 9. " 4 「エジプトの混迷と日本」 10. " 5 「マー君はダルビッシュを超えるか」 11. " 6 「日本人女性と出産の問題」 12. " 7 「ブラック企業をなくす方法」 13. " 8 「年金「安心」理論」 14. " 9 「格差社会の現実」</p> <p>15. 前期のまとめ</p> <hr/> <p>夏休み 課題：読書感想文</p> <hr/> <p>16. 夏休みの課題報告（1） 17. " （2） 18. " （3）</p> <p>19. 文化 テーマ 1 「林真梨子の『野心のすすめ』を読む」 20. " 2 「『半沢直樹』と日本のTVドラマ」 21. " 3 「ポスト宮崎駿 日本アニメの未来」 22. " 4 「宝塚歌劇100年 新しい男役」</p> <p>以下の22～25の回では卒論を視野に入れたテーマで参加者が発表を行う。</p> <p>23. 研究発表 1 24. " 2 25. " 3 26. " 4</p> <p>27. 発表の講評と指導（1） 28. " （2） 29. " （3） 30. " （4）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	TVのニュースを見、新聞を読むこと。 日本文学、外国文学の小説を読むこと。 映画を見ること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	レポート点（30点）＋発表点（30点）＋平常点（40点）						

教科書	「文芸春秋オピニオン 2014年の論点100」 ISBN978-4-16-008615-9
参考書	見田宗介『社会学入門』、岩波新書、2006年 大澤真幸『不可能性の時代』、岩波新書、2008年 橋本努『ロスト近代』、弘文堂、2012年

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活基礎演習						
担当教員	柴田 亜樹						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	新聞やニュースから、衣食住に関わるフィールドワークを行う						
授業の概要	問題抽出とフィールドワークの基礎を学習する						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康に関わる社会の要素を理解する 2. 健康に関わる環境の要素を理解する 3. 健康状態を把握するための調査や指標を知る 4. 社会や生活に関心を深め、多くの情報の中から問題抽出し、解決に導く基礎を築く 						
授業計画	第1回 演習の概要 第2回 文献検索と情報収集の方法 第3回 社会と健康（1） 第4回 社会と健康（2） 第5回 環境と健康（1） 第6回 環境と健康（2） 第7回 医療・福祉の制度 第8回 高齢者保健・介護 第9回 健康に関わる保健統計（1） 第10回 健康に関わる保健統計（2） 第11回 健康状態の測定と評価 第12回 現代の社会問題 第13回 各自のレポートと報告・討論（1） 第14回 各自のレポートと報告・討論（2） 第15回 まとめとレポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業計画に従って予習しておくこと						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	受講態度（10%）、レポート作成（90%）の総合評価						
教科書	適宜、プリントを配布する						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活論						
担当教員	池田 清						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代女性の幸せと自立						
授業の概要	女性の自立は、女性の歴史から学ぶとともに、コミュニケーション能力を身につけることが必要で、具体的事例をあげて考える。						
到達目標	自分の頭で考え行動し生活を創造する方法を身につける						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のねらいと概要の説明 2. 人間発達とコミュニケーション能力 3. 都市生活とコミュニケーション能力 4. 日本の雇用システム 5. 非正規雇用と都市生活 6. ワーキングプアとジェンダー 7. 古代の女性の生活 8. 中世の女性の生活 9. 近世の女性の生活 10. 明治期の女性の生活 11. 大正期の女性の生活 12. 戦後の女性の生活 13. 環境問題と都市生活（1） 14. 環境問題と都市生活（2） 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど社会の動向に関心を持つ						
授業方法	講義を中心としてビデオなどを活用する						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30%						
教科書	授業のときに紹介する						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。						
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。						
到達目標	代表的な被服材料の種類と特徴を説明することができる。 アパレル製品の消費性能と被服材料との関係を説明することができる。 身の回りのアパレル製品について、消費者として考えを述べるすることができる。						
授業計画	第1回：はじめに 第2回：糸の分類 第3回：糸の構造（1）糸の太さ 第4回：糸の構造（2）糸のより 第5回：織物の組織と種類（1）一重組織 第6回：織物の組織と種類（2）誘導組織他 第7回：代表的な織物の特徴 第8回：織物の製造方法 第9回：編物（1）編物の構造 第10回：編物（2）代表的な編物の特徴 第11回：その他の被服材料（1）皮革 第12回：その他の被服材料（2）羽毛他 第13回：被服材料の消費性能（1）力学特性 第14回：被服材料の消費性能（2）風合い 第15回：まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：身近な被服材料に関心を持ち、授業で学んだ事柄を確認すること。						
授業方法	講義、VTR、演習						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％） 出席を重視する。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学－概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学実験						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	繊維、糸、布の物理学的実験						
授業の概要	被服に要求される性能はさまざまである。被服を構成する繊維、糸、布の物理的性質を学ぶことは、これらを説明する上で欠かせない。ここでは被服材料学で得た知識をもとに実験を行い、それらの方法を理解するとともに、得られた結果から試料の性能を評価する。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回：繊維の鑑別—顕微鏡による繊維の観察 第2回：繊維の鑑別—繊維の燃焼性と比重 第3回：繊維の鑑別—染色法、混用率測定 第4回：糸の太さと撚り① 第5回：糸の太さと撚り② 第6回：織物、編物の基本構造① 第7回：織物、編物の基本構造② 第8回：織物の水分率 第9回：布の吸水性 第10回：布の防しわ性と剛軟性 第11回：布の保温性、糸の引張強さ 第12回：布の通気性と引き裂き強さ 第13回：布のドレープ性と摩擦強さ 第14回：布のピリング 第15回：布の撥水性、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読み、実験内容を把握しておくこと。 授業後学習：レポートを作成し、次回の授業時に提出すること。						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点（40～60%）、レポート（40～60%） 遅刻、欠席は平常点より減点する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『被服材料実験書』石川欣造 著、同文書院 ISBN 9784810311044						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	被服整理学とは、被服の管理に関する学問である。取り扱う内容は、日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまで及ぶ。本講義では、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。						
到達目標	被服の洗浄理論を説明することができる。 素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。 洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考察することができる。						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤 第3回：洗剤の成分と洗浄作用（1）界面活性剤の性質 第4回：洗剤の成分と洗浄作用（2）界面活性剤の種類 第5回：洗剤の成分と洗浄作用（3）配合剤の種類と洗浄作用 第6回：洗濯機 第7回：家庭洗濯 第8回：洗浄力・機械作用の試験法と評価 第9回：漂白剤と増白 第10回：しみ抜き 第11回：糊つけと仕上げ 第12回：衣服の保管 第13回：商業洗濯、取扱い絵表示 第14回：衣服の廃棄とリサイクル 第15回：まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	被服の洗濯・洗浄と染色に関する実験						
授業の概要	日常の被服管理において、洗濯は最も中心的な役割を果たす。本実験では、洗剤の主成分である界面活性剤の作用と洗濯の諸条件、色素の分解（漂白）や吸着（染色）、染色物の色の落ちにくさ（堅ろう度）に関する実験を行う。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回：界面現象 第2回：界面活性剤の性質と作用 第3回：石けんの製造 第4回：洗浄試験、水洗濯、ドライクリーニング 第5回：精練・漂白・増白 第6回：しみぬぎ 第7回：洗濯に伴うトラブル 第8回：西洋茜による染色 第9回：酸性染料による染色とその色 第10回：直接染料による染色と染色条件の検討 第11回：反応染料による三原色配合染色 第12回：分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第13回：建て染め染料による染色 第14回：染色堅ろう度試験 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：配布したプリントを読み、実験の大まかな手順を把握しておく。 授業後学習：実験したことをレポートにまとめる。						
授業方法	個人またはグループによる実験。						
評価基準と評価方法	平常点（40～60%）、レポート（40～60%）						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	私達が着用している被服は、どのような繊維から作られているのだろうか。本講義では、綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。						
到達目標	被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。 自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる。 着用目的に合った繊維素材を選択することができる。						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維①綿 第3回：天然繊維 植物繊維②麻、他 第4回：天然繊維 動物繊維①絹 第5回：天然繊維 動物繊維②羊毛、獣毛 第6回：化学繊維 化学繊維とは何か 第7回：化学繊維 再生繊維、半合成繊維①レーヨン・キュブラ・アセテート 第8回：化学繊維 合成繊維①ナイロン、アクリル 第9回：化学繊維 合成繊維②ポリエステル 第10回：化学繊維 合成繊維③ビニロン、ポリウレタン、他 第11回：化学繊維 無機繊維①ガラス、炭素、金属繊維 第12回：新しい繊維の開発 ①感性と繊維 第13回：新しい繊維の開発 ②高機能繊維 第14回：生活環境と繊維 第15回：まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、レポート（40－60％） 出席を重視する。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学－概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	ファッション流通論						
担当教員	白坂 文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッショントレンドを生む流通システムを学ぶ						
授業の概要	ファッションには「トレンド（流行）」があり、毎シーズンさまざまなトレンドが生まれては消えていく。このトレンドはどのように生まれてくるのだろうか。我々が「今シーズンのトレンド」として受け取っているものの大半は、仕組みられた流通システムによって生み出されており、アパレル業界側が意図して仕掛けているのである。本講義ではアパレル流通の基礎知識を学び、トレンドを生み出すシステムを理解する。また、様々な時代や国のトレンドについても学び、トレンドがどのように変化してきたかを学ぶ。						
到達目標	ファッション流通の基礎知識とトレンドを生み出すシステムを学び、トレンドの変遷についても理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. トレンドについて 3. ファッションビジネスの定義と特性 4. ファッションビジネスの変遷 5. ファッション産業の流通のしくみ 6. ファッション情報の収集と分析 7. 売り場商品構成の基礎 8. トレンドの変遷①古代エジプト時代 9. トレンドの変遷②ルネサンス時代 10. トレンドの変遷③ロココ時代 11. ファッションリーダー：マリー・アントワネットについて 12. トレンドの変遷④平安時代 13. トレンドの変遷⑤江戸時代 14. ブランドの戦略（ガブリエル・ココ・シャネル） 15. 試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：今シーズンのトレンドについて、自分なりに調べ考察しておく 授業後学習：理解できなかった内容は次回質問し、欠席したり授業内に出来なかった課題は各自進めておく						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験50% 課題30% 出席状況（授業態を度含む）20%						
教科書	文化ファッション大系 ファッション流通講座①『ファッションビジネス流通編基礎』文化服装学院編						
参考書	授業内に紹介する						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードコーディネート論						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食のコーディネートを学ぶことで、食生活を楽しく演出できるようになること。 (フードスペシャリストの資格試験科目)						
授業の概要	世界無形文化遺産に登録された和食をはじめ、イタリアンや中国料理など世界各国の食生活を学ぶと共に食事スタイルを理解する。そして昔から経験に基づいて築かれた伝統技術（例えば包丁の扱い方やテーブルマナー）や知識の理解を深め、食生活の楽しさを演出できる工夫を考える。さらに、昨今大きな課題である食育、食の安全性について現状を理解するとともに、なぜこのような問題が生じたのかを捉えていく。						
到達目標	①食には幅広い役割（体をつくる役割、コミュニケーションを育むための場、教育の場、楽しむ場、その他）があることを理解し、実践出来るようになる。 ②食教育で使用できる楽しい教材を考えることができる。 ③楽しい食空間を演出し、自らの考えを述べることができる。						
授業計画	第1回 フードコーディネートとフードスペシャリスト 第2回 フードコーディネートの基本理念 第3回 現代の食事文化とその課題 第4回 メニュープランニング 第5回 テーブルウェアと食卓の演出 第6回 食卓のサービスとマナー 第7回 食空間のコーディネート 第8回 フードマネジメント 第9回 フードコーディネートの情報と企画 第10回 食環境とフードシステム 第11回 フードコーディネートと食育 第12回 食育の現状と問題点 第13回 食におけるコミュニケーション 第14回 フードコーディネーターのあるべき姿 第15回 フードコーディネートの今後の課題とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の必要な箇所を読んでおくこと。また、食に関する資料を集めておくこと。 授業後：復習をし、要点をまとめておくこと。						
授業方法	講義 場合によって実習などを取り入れることがある						
評価基準と評価方法	レポート（2回）20%、小テスト20%、期末テスト60%						
教科書	（社）日本フードスペシャリスト協会編「新版 フードコーディネート論」						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードスペシャリスト論						
担当教員	青谷 実知代・武智 多与理						
学期	後期 前半	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	フードスペシャリストになるための幅広い食の知識を学ぶ。（フードスペシャリスト資格試験科目）						
授業の概要	消費者嗜好の多様化、それによる生活習慣病の増加、食品加工や保存管理など食流通への不安など食生活の見直し幅広い領域で行われている今こそ、栄養士（管理栄養士）とは違う高度な食品・食物に関する専門知識を必要とする。将来、食教育の活動を推進できる専門的な食の知識を身につけることを目指す。 本講では、食品の開発検査、官能評価・鑑別、顧客に対する情報提供・販売促進、快適な食事コーディネート、食育活動など推進できる専門職の育成を目指す。						
到達目標	①フードスペシャリスト試験を目指すことができる ②食の幅広い専門知識を理解し、食の特徴を説明することができる。 ③食問題を批判的に捉える事ができる。 ④フードスペシャリスト資格試験対策ができる。						
授業計画	第1回：フードスペシャリスト論の定義と役割（青谷） 第2回：フードスペシャリストと食教育の課題（青谷） 第3回：食品の官能評価（武智） 第4回：食品の鑑別論（武智） 第5回：食物学①（武智） 第6回：食物学②（武智） 第7回：食品の安全性①（武智） 第8回：食品の安全性②（武智） 第9回：調理学①（武智） 第10回：調理学②（武智） 第11回：栄養と健康（武智） 第12回：食品の流通（青谷） 第13回：食品の消費（青谷） 第14回：フードコーディネート論（青谷） 第15回：フードコーディネート論と総まとめ（青谷）						
授業外における学習（準備学習の内容）	食の情報を常に集めておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20%（確認テストや課題の取り組み）、小テスト20%、期末テスト60%						
教科書	「フードスペシャリスト論」（社）日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、1998年						
参考書	随時、紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	保育・看護学（実習を含む）						
担当教員	大塚 優子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	子ども理解と子育て						
授業の概要	保育とは、乳幼児に対しその心身の健やかな成長、発達を促すための営みのことであり、その営みには医学・生物学的、教育的、社会的、文化論的理解が必要不可欠です。本授業では、子どもの成長、発達を多角的にとらえ学習していきます。また、やがては「育てる立場」の人間になることをふまえ、そのあり方も問うこととします。						
到達目標	1、乳幼児の成長、発達についての基礎的知識を知ることができるようになります。 2、子育てに求められる資質を身につけることができます。						
授業計画	第1回 保育の意味 第2回 母体の健康 第3回 子どもの発達 ①身体発育 第4回 子どもの発達 ②精神発達 第5回 子どもを育てる ①愛着と自立 第6回 子どもを育てる ②親のかかわり 第7回 子どもを育てる ③不適切なかかわり 第8回 子どもの育つ環境 ①子どもの生活 第9回 子どもの育つ環境 ②子どもの遊びと文化～おもちゃ 第10回 子どもの育つ環境 ③子どもの遊びと文化～絵本 第11回 子どもの育つ環境 ④子育て支援 第12回 子どもの育つ環境 ⑤集団保育 第13回 家庭における看護 ①病気と事故 第14回 家庭における看護 ②基本的な看護 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の最後に、次回の授業内容を告知しますので、事前に教科書に目を通しておいてください。目安とする学習時間は30分から1時間です。授業中、理解度を確認するために質問します。 授業後学習：プリントを配布するので、学んだことを整理しまとめておいてください。まとめたものは提出していただきます。まとめのプリントは試験のとき役立ちます。授業内容について課題を出しますので、提出してください。課題作成には1時間くらいかかります。毎授業後、学習の振り返りを行います。理解できなかったことは、授業またはメールで質問してください。						
授業方法	講義（講義が中心ですが、「おもちゃ作り」や「絵本の読み聞かせ」などの実習も行う予定です）						
評価基準と評価方法	試験（1回）40%、課題30%、提出物（まとめのプリント、振り返りシートなど）30%						
教科書	『新保育学 改訂5版』岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子・武田京子・吉川はる奈著、南山堂 ISBN978-4-525-63005-8						
参考書							